

# 金 沢 市 町 会 実 態 調 査 の 結 果 概 要

## 1. 調査の目的

本調査は、地域コミュニティの活性化を図るための基礎資料とするために、金沢市と金沢大学文学部社会学研究室的共同研究として実施いたしました。具体的には、町会の実態を把握し、町会のあり方に関する町会長の意識を知ることを目的としています。

## 2. 調査の概要

### 2. 1 調査の設計

調査は以下のとおり設計されました。

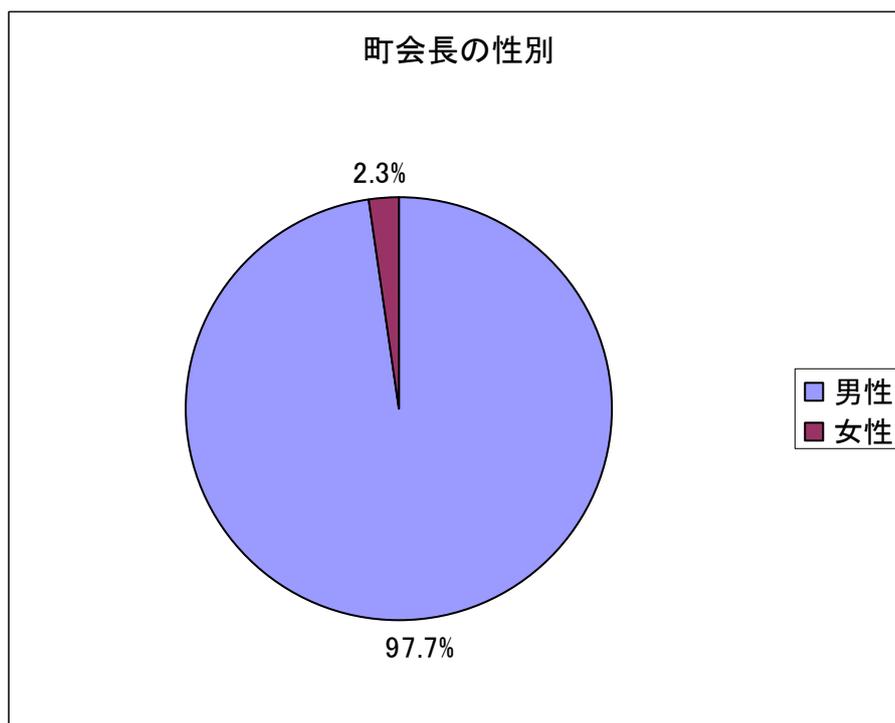
- (1) 調査地域 金沢市内全域
- (2) 調査期間 平成 18 年 9 月 6 日～9 月 30 日
- (3) 調査方法 郵送調査法（調査票郵送送付・回収、調査対象者自記入式）
- (4) 調査対象 金沢市内のすべての町会の町会長 1338 名

### 2. 2 回収率について

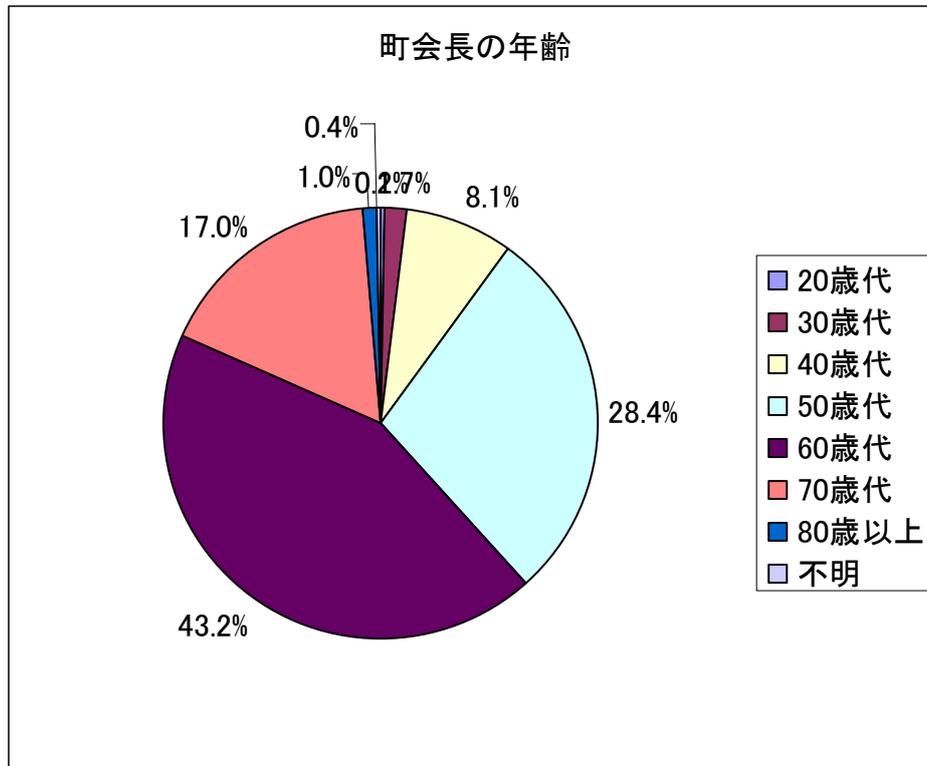
本調査の調査票回収数は 1209 票、有効回収率は 90.4%と、高回収率となっています。ご協力いただきました町会長みなさまに、感謝申し上げます。

### 2. 3 回答者について

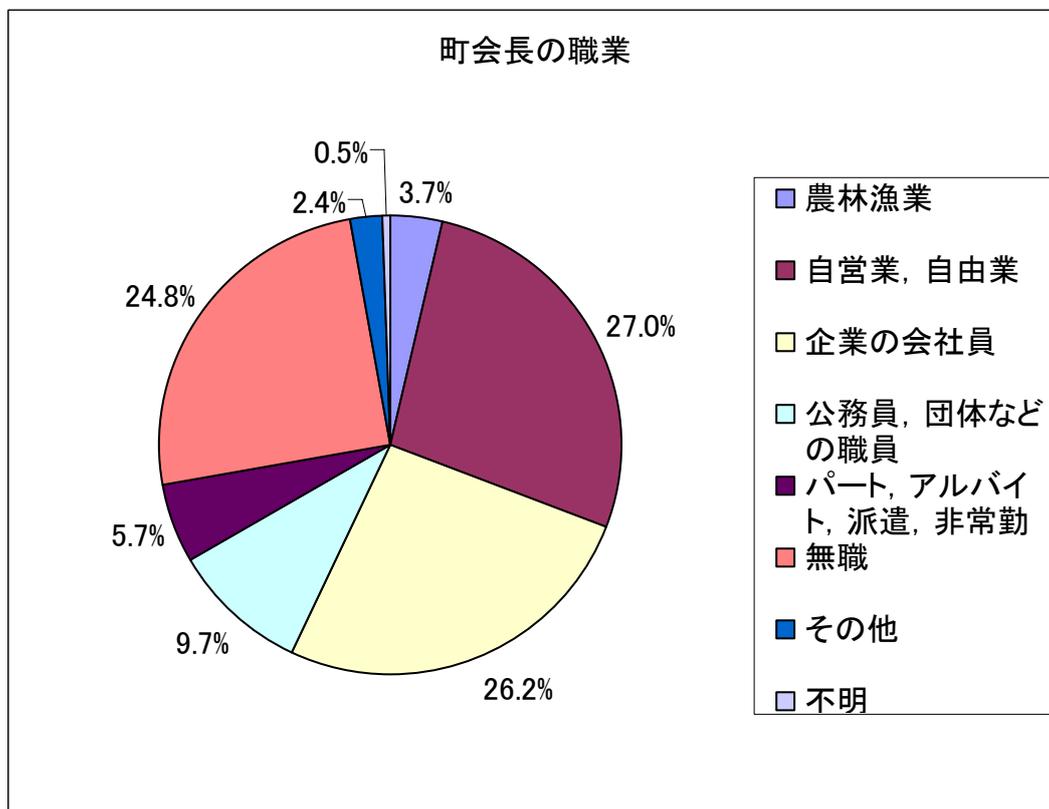
回答者の属性（性別、年齢、職業）は、それぞれ図のとおりとなっています。町会長はほとんどが男性で、女性の町会長はわずかに全体の 2%にすぎません。



年齢を見ますと、60代が4割を越え、もっとも多くなっています。ついで50代が約3割、70代も2割近くにのぼっています。



町会長の職業として最も多いのは自営業となっており、3割近くを占めています。ついで会社員もほぼ同じくらいの割合となっています。また、無職の方も全体の4分の1程度を占めています。

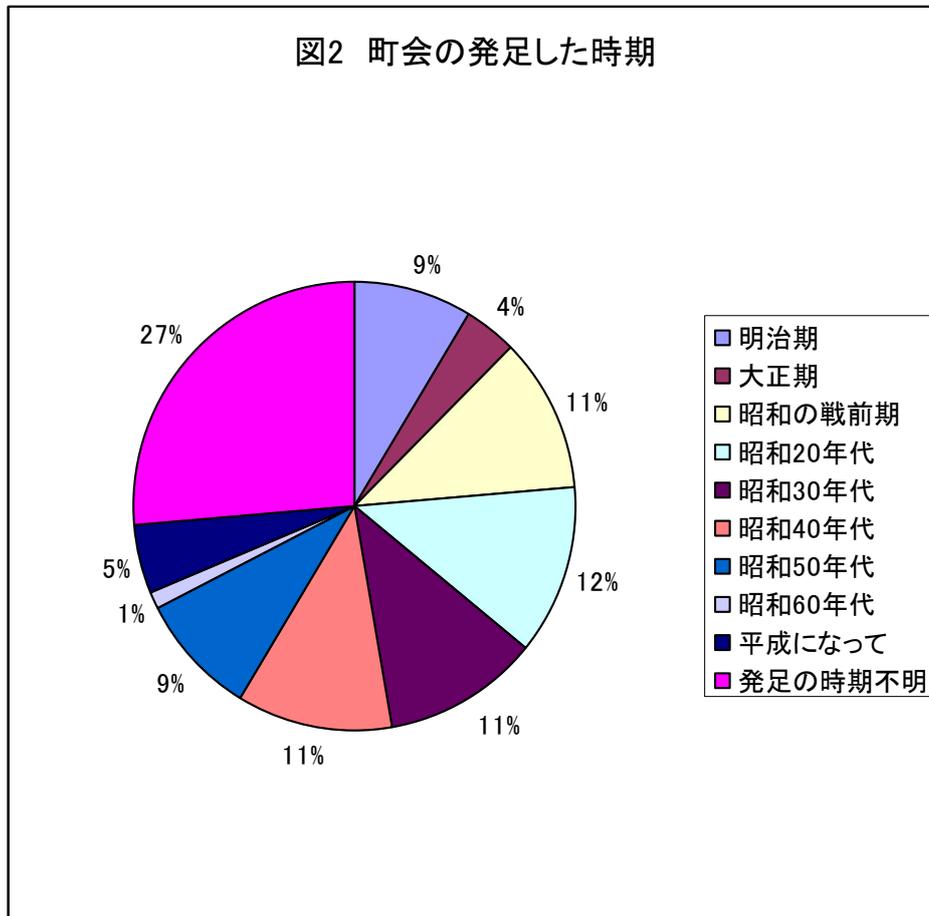


### 3. 調査結果の概要

問2 町会の発足した時期はいつごろですか。

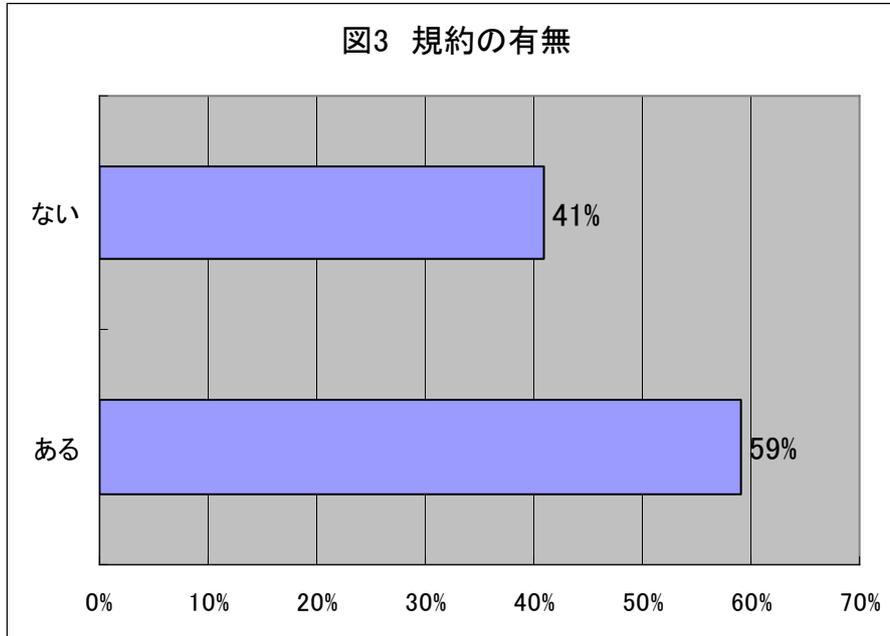
第2次世界大戦前からあるとされる町会が約4分の1を占めています。戦後に発足した町会は約5割であり、そのうち昭和に発足した町会がそのほとんどを占め、平成になってから発足した町会のごく少数となっています。なお、発足の時期不明の町会が全体の約4分の1を占めています。

図2 町会の発足した時期



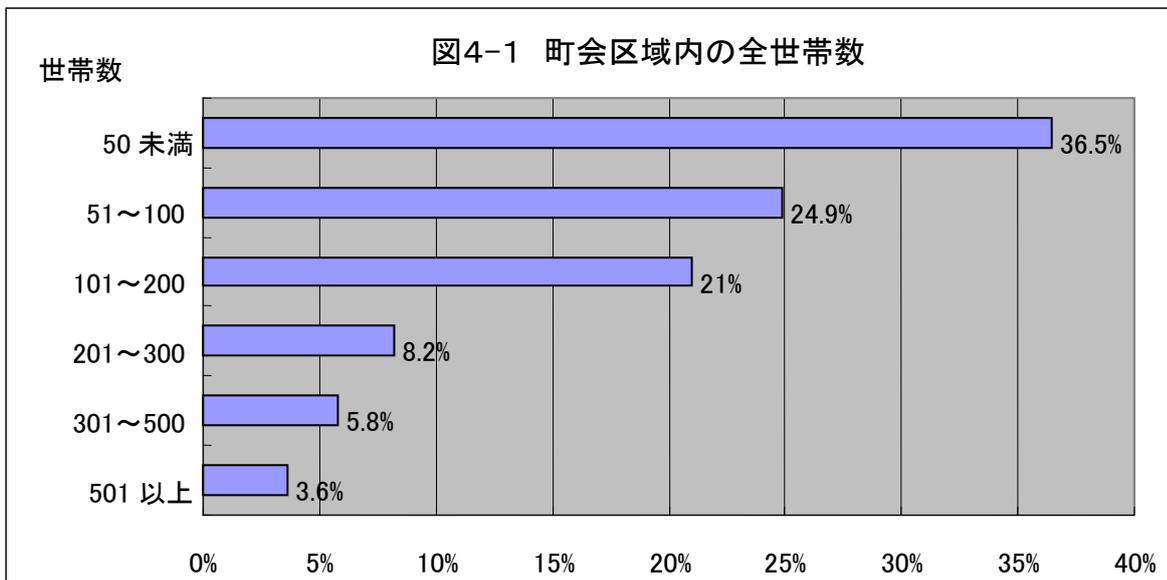
問3 あなたの町会では、規約（会則）はありますか。

全体の約6割の町会が、規約があると回答しました。単なる世帯の集まりではなく、きちんとしたルールに則って活動している町会が多いようです。規約を1部ご恵与くださいとお願いしたところ、たくさんの町会が協力してくださいました。



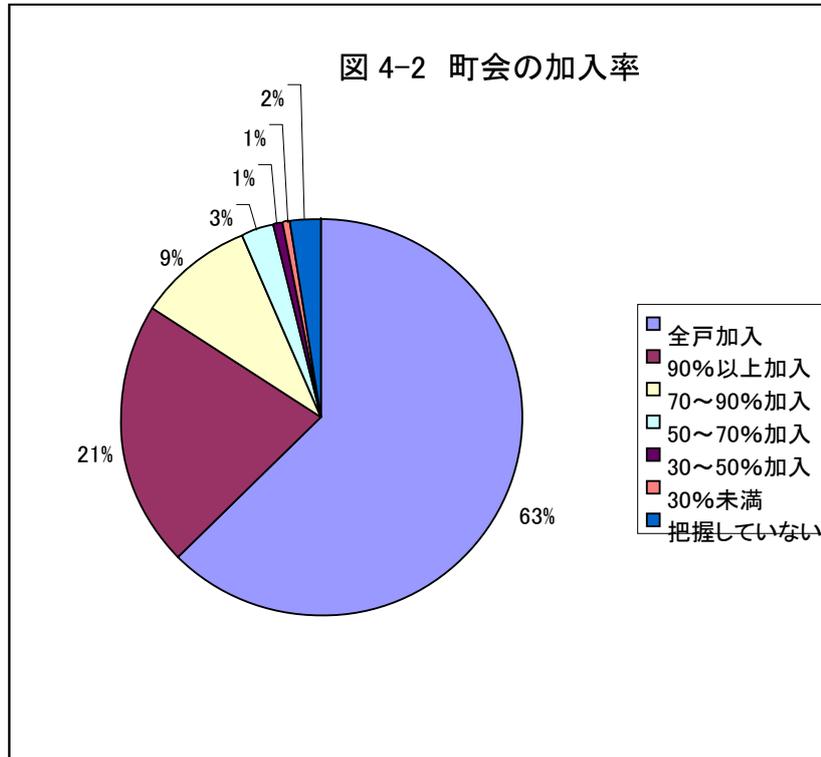
問4 (1) 町会の加入・未加入の状況についてお尋ねします。加入世帯数など、以下の表にご記入ください。

50世帯未満の町会が最も多くなっています。51～100世帯と、101～200世帯の町会もかなり多く、ほとんどの町会が200世帯未満であることがわかります。逆に500世帯を超えるような大きな町会はごく少数となっています。



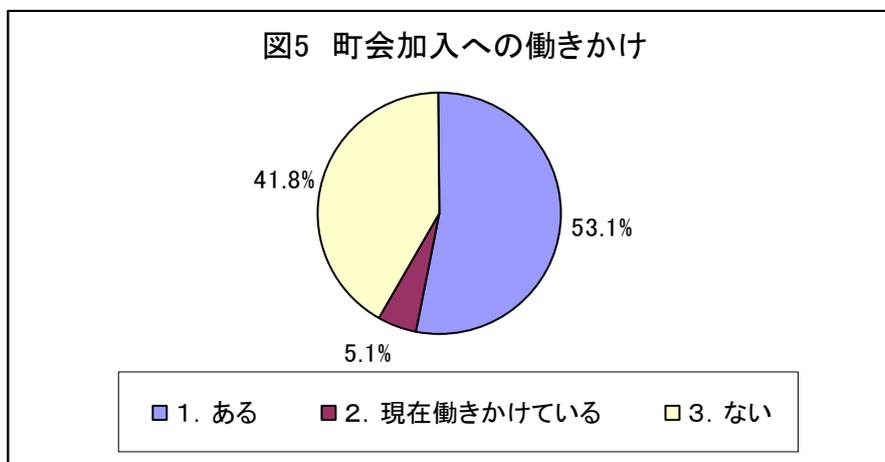
問4 (2) 町会の加入率はおおよそどのくらいですか。加入率は、町会の区域内の全世帯数に対する加入世帯の割合です。

全体の約6割の町会が全戸加入となっている点が注目されます。90%以上加入の町会も約2割を占めており、ほとんどの町会が高い加入率であることがわかります。50%をきる町会は全体の2%に過ぎず、金沢における町会の活発さがうかがえます。



問5 未加入者に、町会への加入を働きかけたことがありますか。

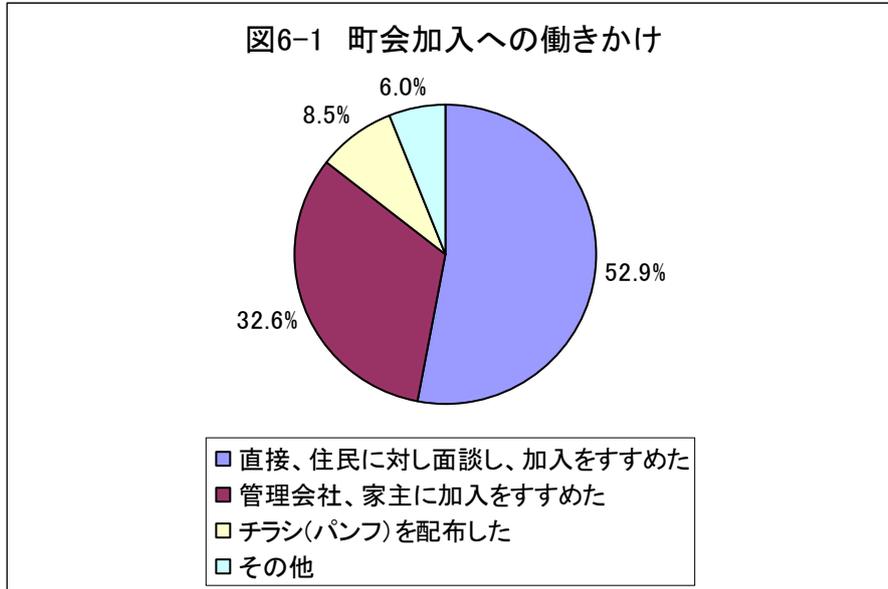
町会加入への働きかけは、約半数程度であった。働きかけたことがない理由の中には、全戸加入だからというものもいくつかあった。



問6 町会への加入の働きかけについてお尋ねします。

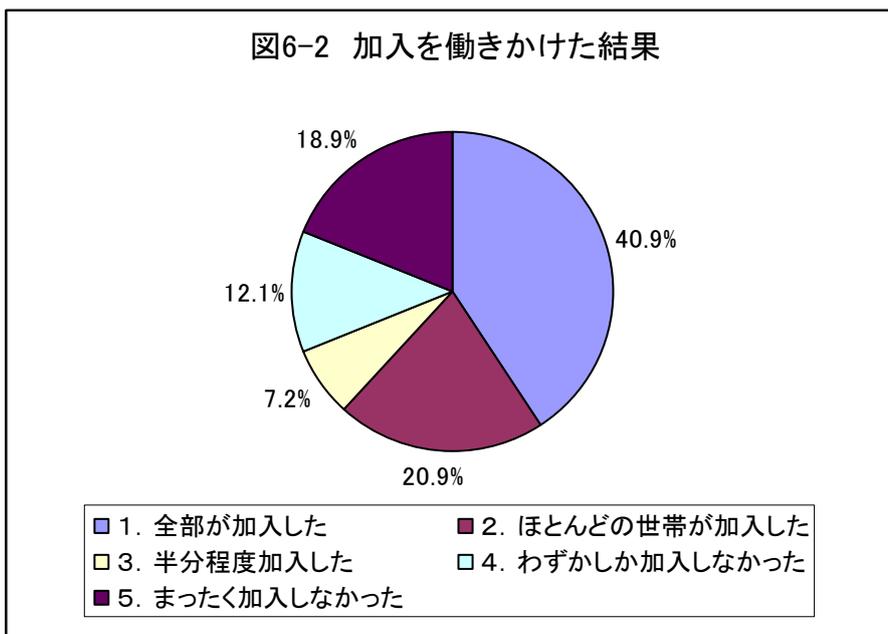
(1) どのような方法で加入を働きかけましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

町会の未加入者に、町会への加入を働きかけたことがある、または現在働きかけている町会長を対象に行なった結果です。住民に対する直接の面談や、家主に加入を勧めるといった手段が多く町の会で行なわれています。



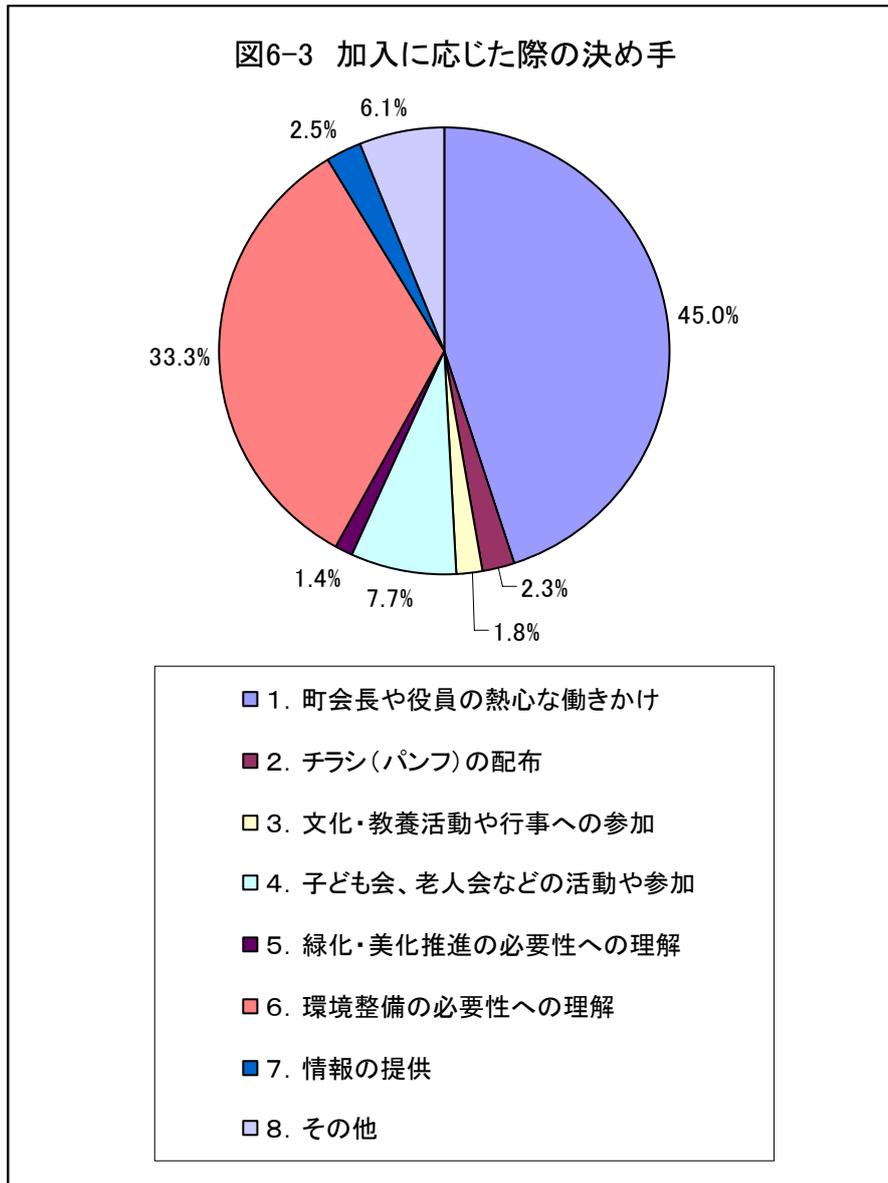
(2) 加入を働きかけた結果はどうでしたか。

働きかけた結果をみると、高い成果を上げています。その一方であまり加入しなかった町会も少なからずはあります。町会長の加入の勧め方の違いや町会によっては参加意欲の差があるのかもしれませんが。



(3) 加入に応じた際、加入の決めては何だったと思いますか。一番大きな決め手になったと思われるもの1つに○をつけてください。

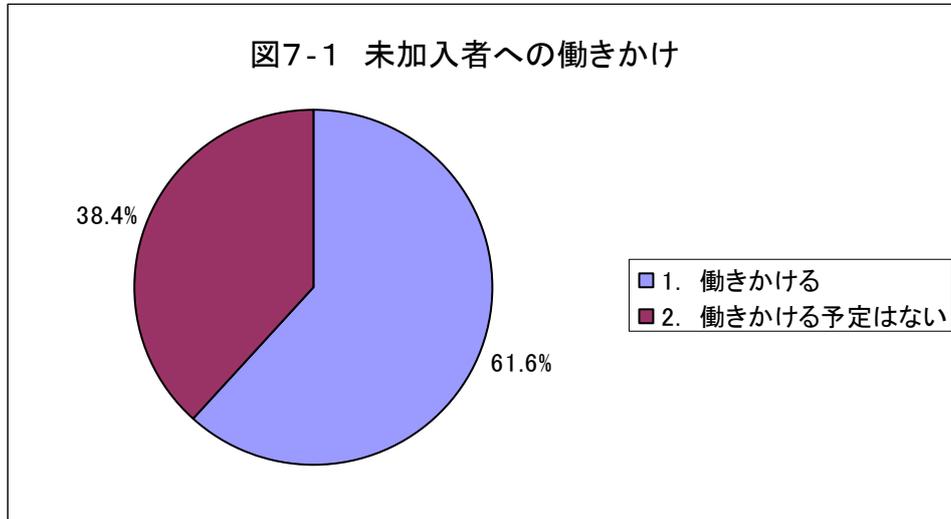
町会長自身が決め手になったと考える内容は、町会長や役員の熱心な働きかけと、環境整備の必要性への理解という2つの事柄のようです。緑化・美化推進も環境整備の一環ではありますが、町の美化よりも町の住みやすさのほうが大きな決め手となったと考えられているようです。



問7（1）今後、未加入者に町会への加入を働きかけますか。

町会未加入者に対して「働きかける」と答えた人は約6割と、過半数を占めています。全体的には積極的に働きかけていこうという人が多いようです。しかし、「働きかけない」と答えた人も4割近く、決して少ないとは言えません。働きかけない理由は何でしょうか。

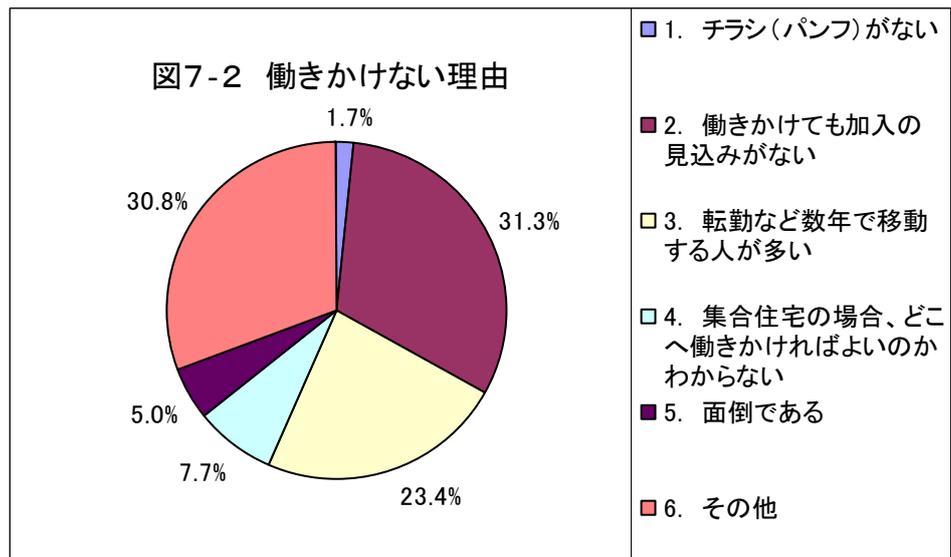
図7-1 未加入者への働きかけ



問7（2）町会加入を働きかけない理由は何ですか。あてはまるものを2つまで選び、○をつけてください。

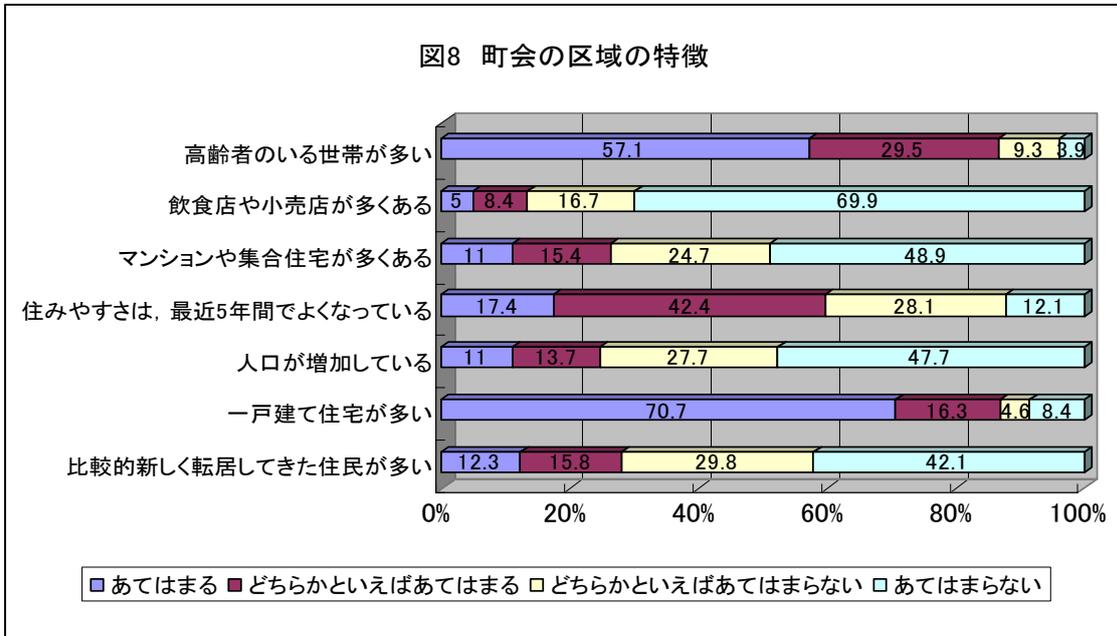
未加入者に町会加入を働きかけない理由として、「働きかけても加入の見込みがない」「転勤など数年で移動する人が多い」が多くなっています。未加入者の加入への消極性や、ライフスタイルなどを考慮すると、熱心に加入を働きかけるのは難しいのが実態のようです。

図7-2 働きかけない理由



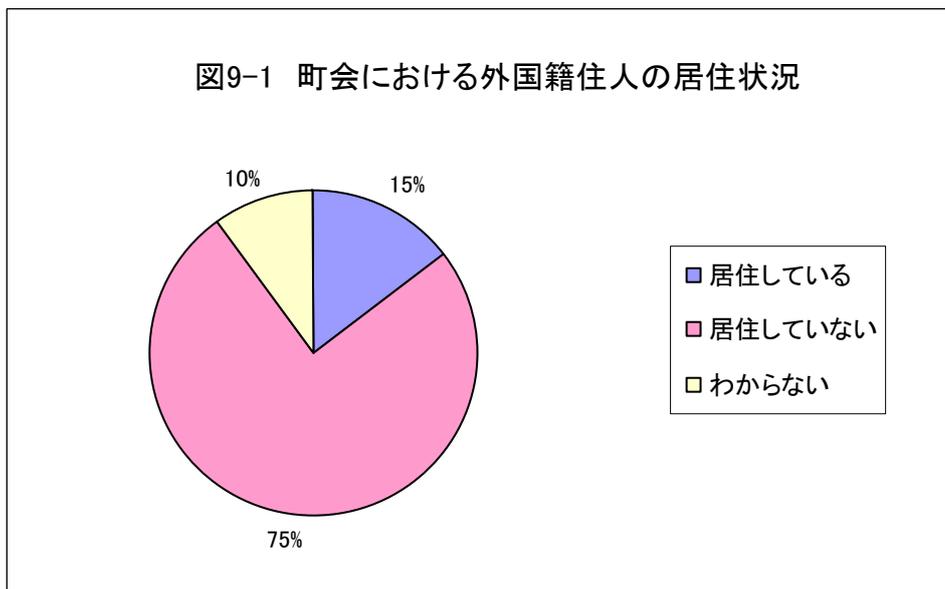
問8 あなたの町会の区域の特徴についてお聞きします。a～gのそれぞれに、次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

町会の区域の特徴について尋ねてみました。もちろん、金沢市内にはさまざまな地域が存在していますので、その特徴もいろいろです。「高齢者のいる世帯が多い」町会が9割近くにもものぼり、金沢市においても高齢化の進行を示しています。飲食店や小売店が多くない区域も多くあります。また、最近すみやすくなったとする町会区域は6割ほどとなっています。



問9 (1) あなたの町会の区域に外国籍の方が居住していますか。

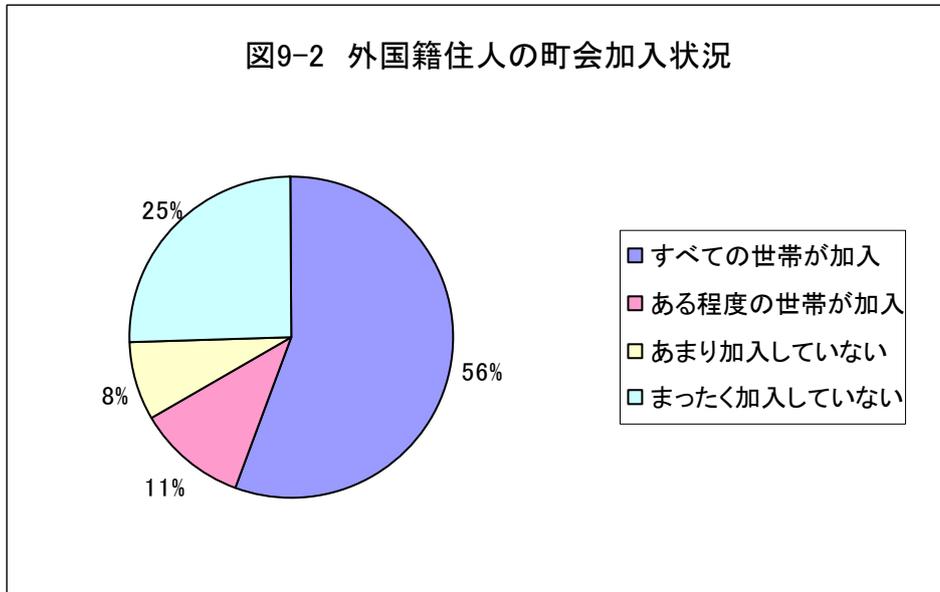
「わからない」と回答した町会が10%にとどまっているという結果から、多くの町会は自分たちの町会における外国籍住人の居住状況を把握しているということがいえます。また、外国籍住人が居住していない町会は全体の75%、居住している町会は15%という結果から、多くの町会には外国籍住人は居住していないことがわかります。つまり、金沢市に登録されている外国籍住人は特定の町会に集まって居住している可能性が高いといえるでしょう。



問9 (2) それらの世帯は町会に加入していますか。

外国籍住人が居住している町会においては、「すべての世帯が加入」および「ある程度の世帯が加入」と回答した町会があわせて67%に及んでいます。このことから、ある程度の外国籍住人たちは町会に加入していると考えられます。しかし、一方で、まったく加入していない外国籍住人も一定数存在していることがわかります。

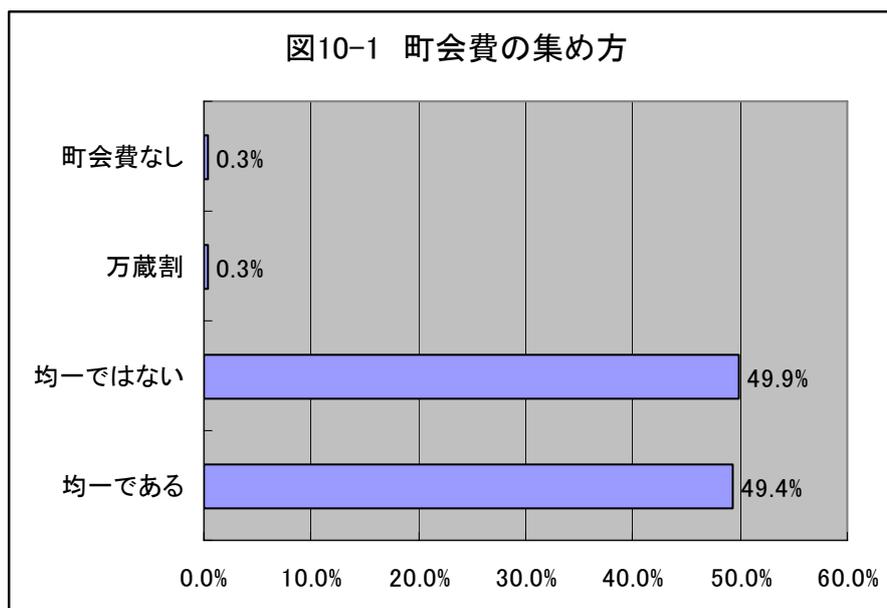
図9-2 外国籍住人の町会加入状況



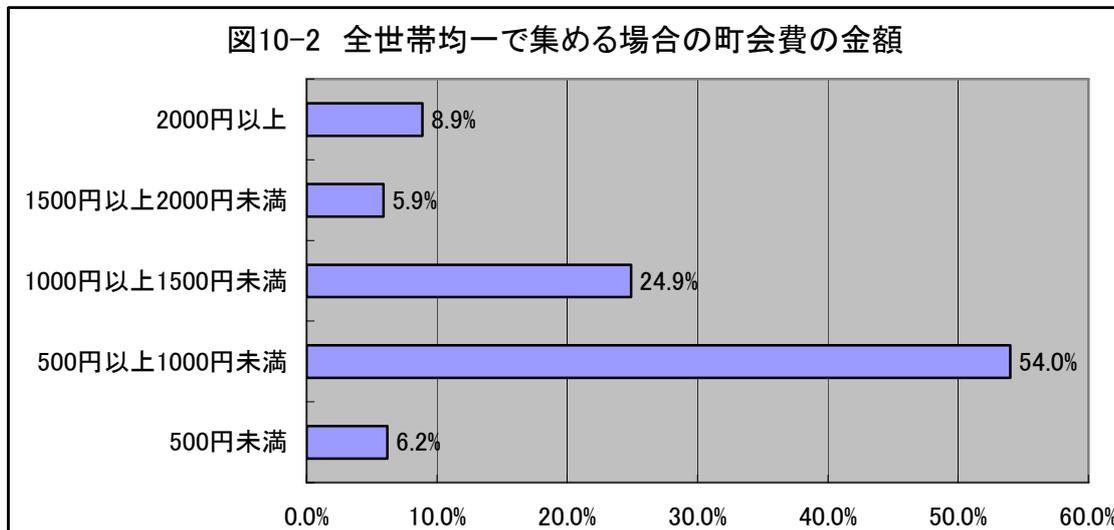
問10 町会費は全世帯均一ですか、それとも均一ではないですか。当てはまる方を選び、金額をご記入ください。

町会費は全世帯均一であるところと均一ではないところがほぼ同じ数あります。また町会費を集めていない町会が4つほどありました。伝統的な万蔵割という方法をとっているところも少数ですがあります。町会費の集め方は町会によって様々であるということがわかります。

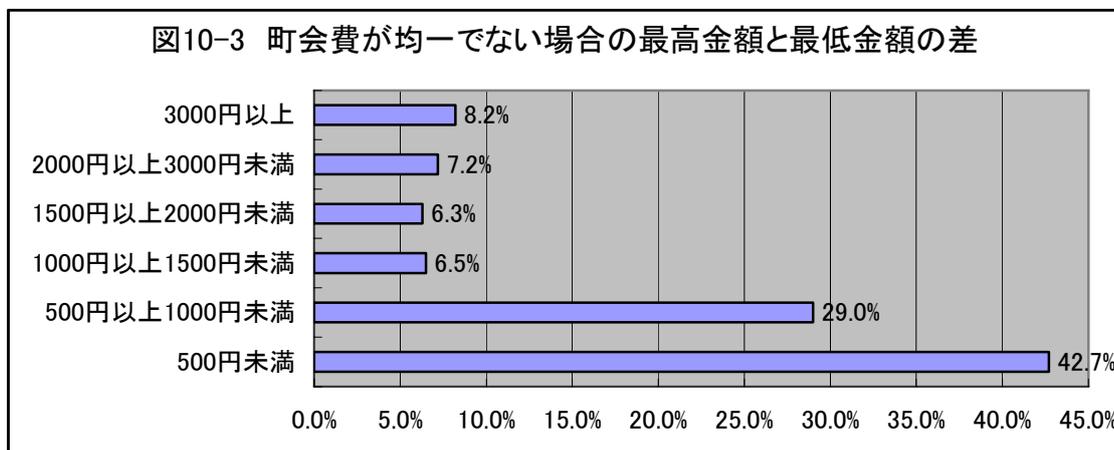
図10-1 町会費の集め方



全世帯同じ金額で町会費を集める町会での、町会費の月額についてみてみます。500円から1000円のところが最も多く5割強を占めており、次に1000円から1500円のところが多いです。高額なところでは町会費が1万円以上の町会もありました。しかし一般的な町会費は500円から1500円くらいであるといえるでしょう。



次に町会費が世帯ごとに異なる町会についてみてみます。町会の中で最も高い金額と最も低い金額の差をみると、500円未満のところが一番多く、4割強占めています。次に500円以上1000円未満のところが多いです。差額が3000円以上の町会も1割ほどあります。また、町会費の差額の平均は1327円です。

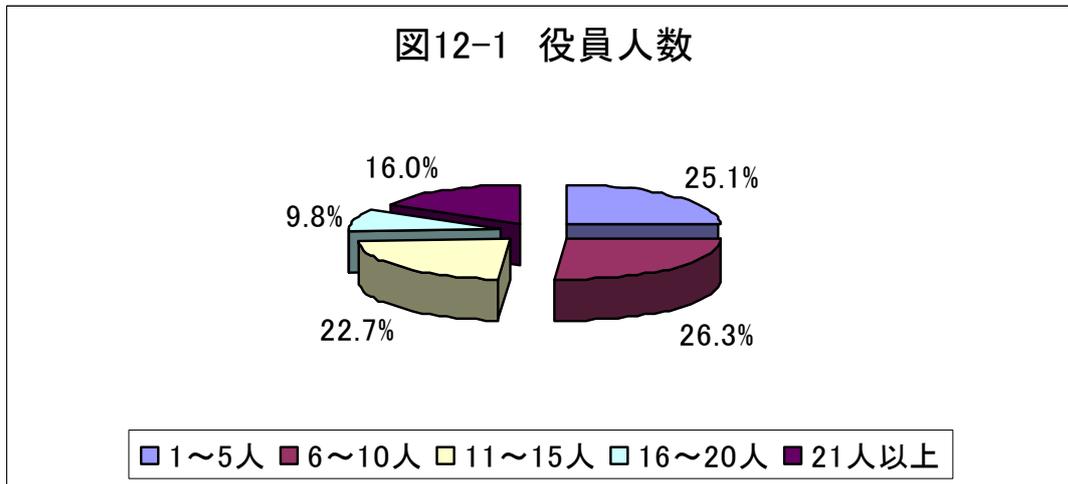


問11 (2) 人が住んでいなくても町会費を集めている理由は何ですか。ご記入ください。

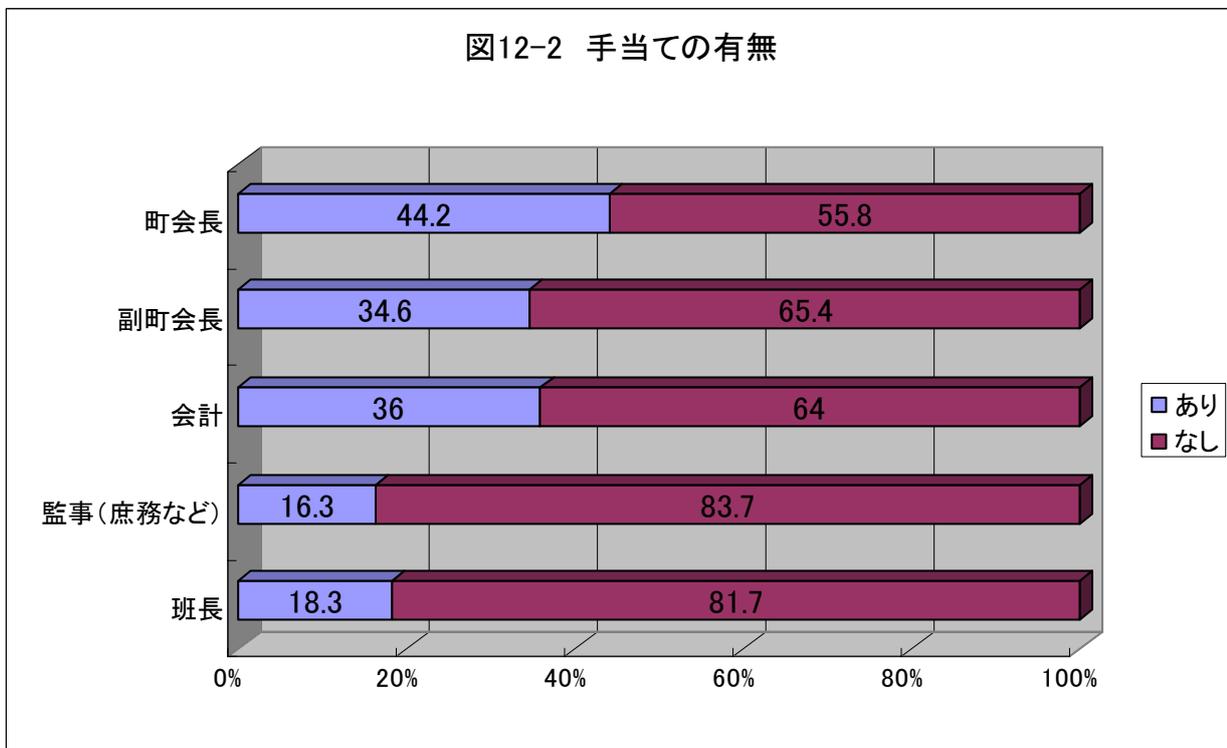
町会費を集めていないところが6割、集めているところが4割です。町会費を集めているところでも、住人より少ない金額を徴収する町会が半数以上です。町会費を集める理由についてたずねると、空き家や空き地の維持・管理には費用がかかるためだという意見が多数です。例えばごみ拾い、草むしりなどの清掃、除雪、防犯対策としての街路灯の設置などです。また駐車場は営業活動をしているので町会費を集めると答えた町会もありました。他にはアパート住人の出入りが激しいため、大家が町会費を一括で払うところや、町会内に世帯数が少なく、町会費の不足を補うために集めるところもありました。

問12 あなたの町会での代表者および役員の構成と、役員に対する手当について、以下の表にご記入ください。役員に関しては、表にない役職がありましたら、その名称をご記入のうえ、回答してください。

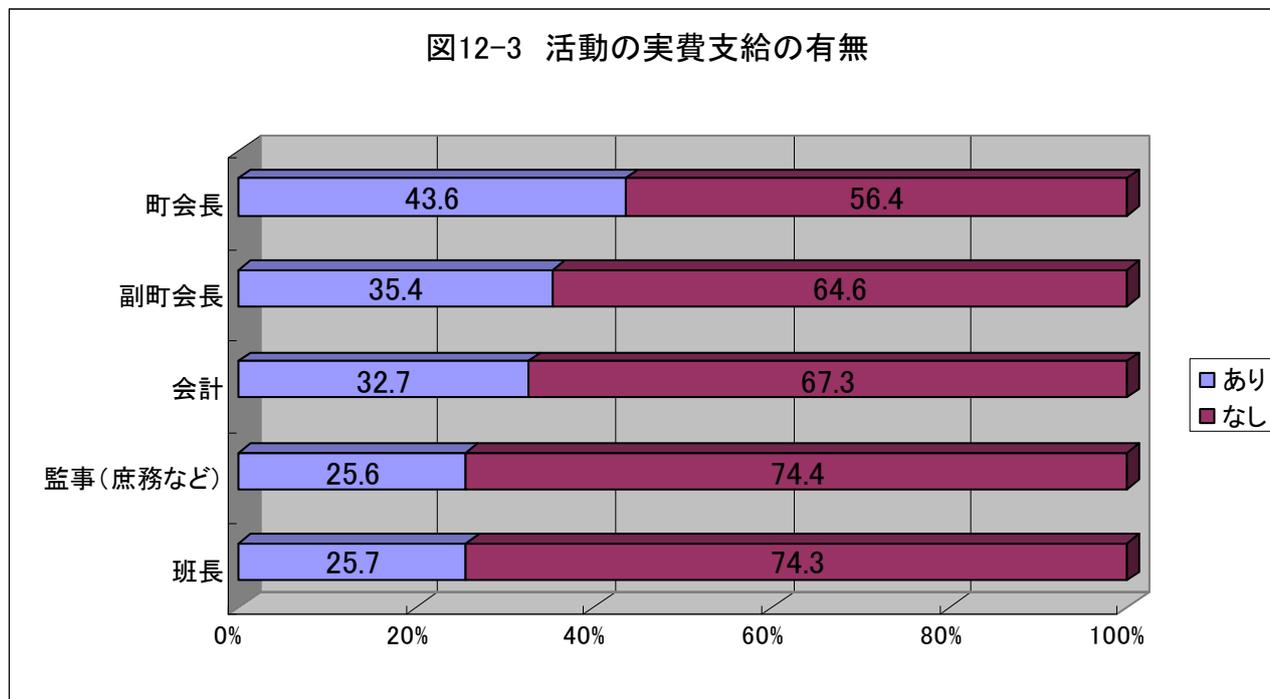
それぞれの町会の役員人数の合計についてお聞きしました。「6～10人」という答えが26%と最も多くなっています。しかし、「21人以上」も16%を占めており、役員人数についてはそれぞれの町会で大きくばらつきがあるようです。



町会の役員に対する手当の有無についてお聞きしました。「手当がある」という答えは「町会長」で4割を超えており、最も多くなっています。全体的に、重要な役職ほど手当があるようです。

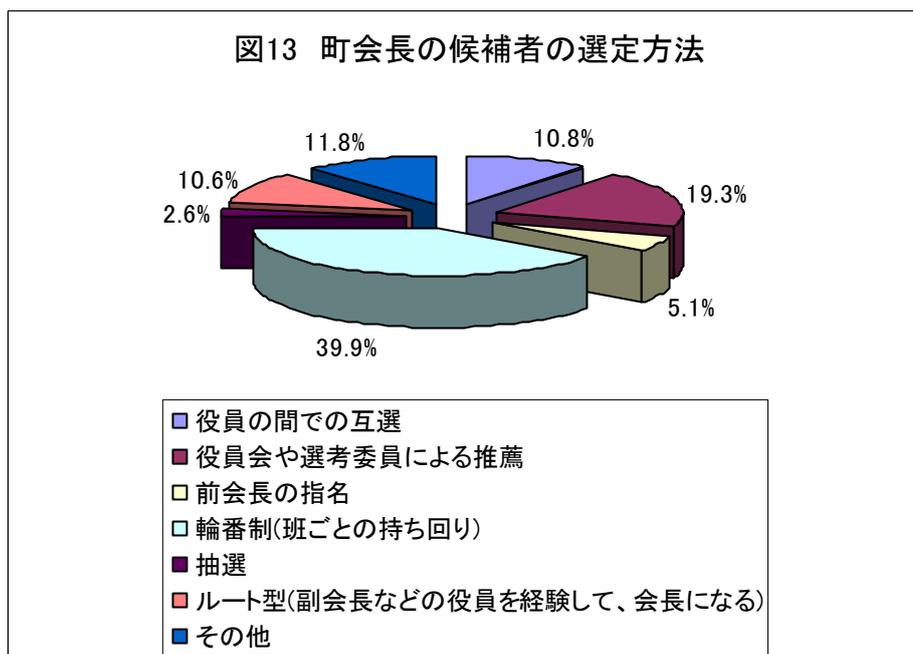


町会の役員に対する活動の実費支給の有無についてお聞きしました。回答には、「手当の有無」と同様の傾向が見られます。「町会長」の約4割に活動の実費支給があるようです。全体的に、重要な役職ほど活動の実費支給があると言えるでしょう。



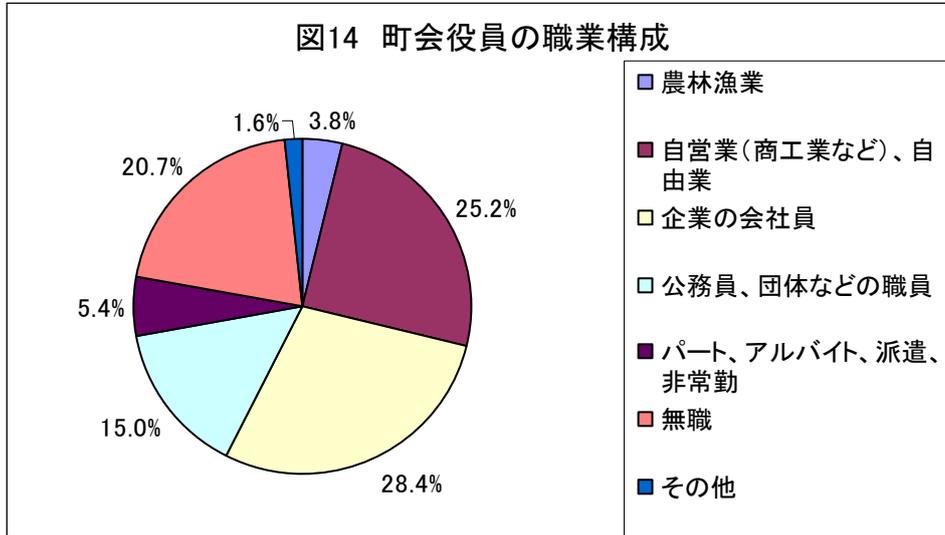
問13 町会長の候補者の選定方法はどれですか。

町会長の候補者の選定方法についてお聞きしました。「輪番制(班ごとの持ち回り)」が約4割と最も多くなっています。2番目に多いのは「役員会や選考委員による推薦」で、約2割を占めています。一方、「前会長の指名」や「抽選」はともに1割以下で少なくなっています。



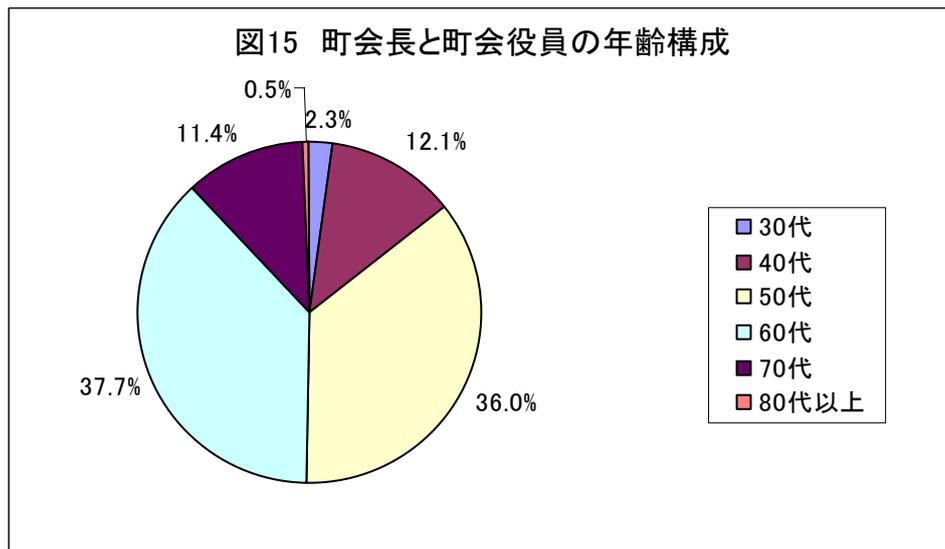
問14 現在の町会長や役員の方の職業として多く見られるのはどれですか。主なものを3つまで選び○をつけてください。

「自営業（商工業など）、自由業」と「企業の会社員」がそれぞれ約4分の1を占めています。また「無職」も21%と約5分の1にもなっていますが、これは町会役員の従事者に定年後の高齢者が多いためと思われます。



問15 現在の町会長や役員の方の年齢層について多く見られるのはどれですか。主なものを2つまで選び、○をつけてください。

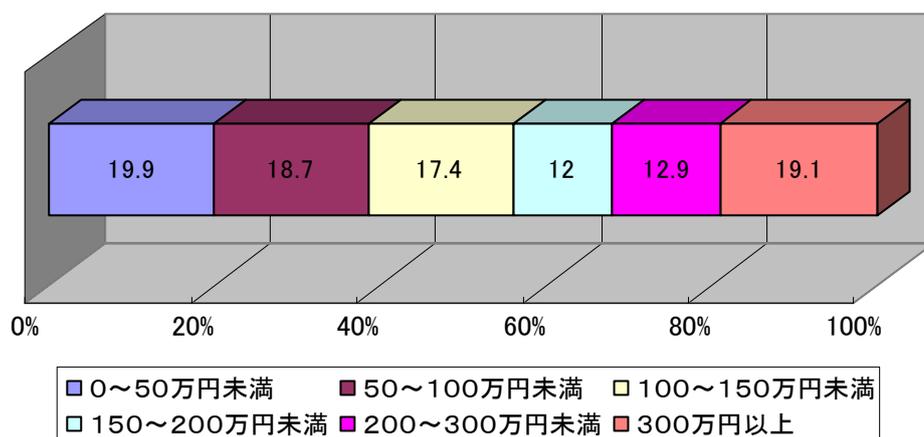
50代が多いとの回答が36%、60代が多いとの回答が38%と、この2つで7割以上になり、町会長と町会役員を務めていらっしゃる方は圧倒的に50代と60代が多いものと思われます。30代はわずか2%にとどまり、40代も12%と1割程度になっています。町会の役員を担う年齢層は偏っているといえます。



問16 町会の一般会計の年間予算額（平成18年度）をご記入ください。

一般会計の年間予算額は、50万円未満が約20%、50万円以上100万円未満が約19%となっており、100万円以上150万円未満が約17%、150万円以上200万円未満が12%、200万円以上300万円未満が約13%となっています。300万円以上の予算を組んでいるのが約19%です。予算額は町会の規模や性質によって変わるものと思われます。

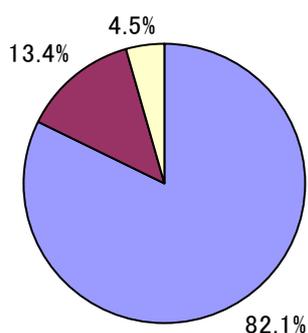
図16 町会の一般会計の年間予算額



問17 予算・決算及び事業内容はどのように決定していますか。

役員会で決定するという町会が1割であるのに対し、総会で決定するところが8割を越え多くなっています。町会の役員だけでなく、地域の住民を交えてより民主的に決定をしている町会が多いと言えます。

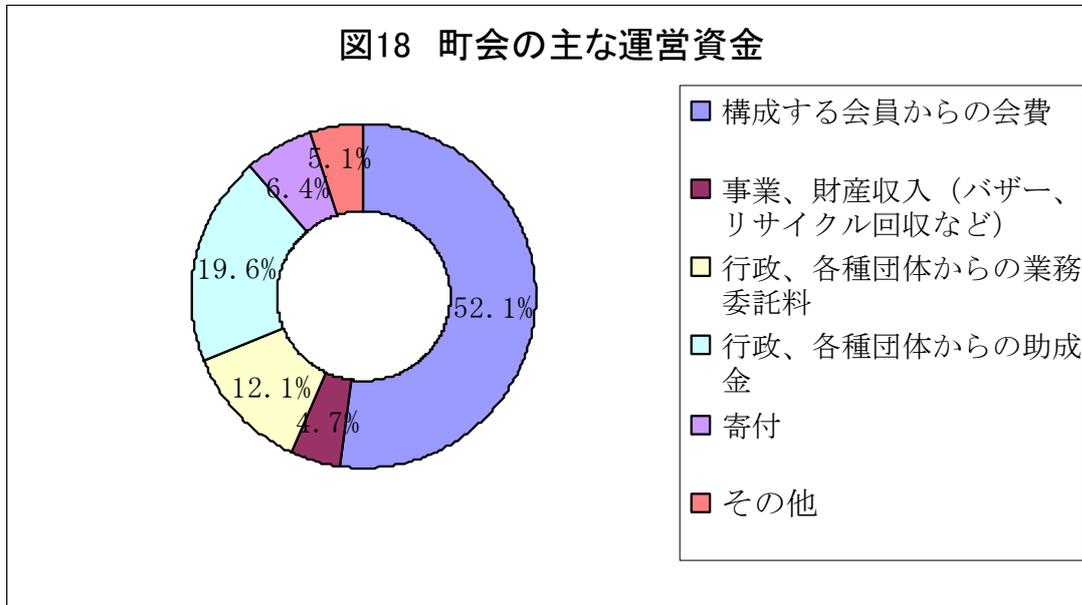
図17 予算・決算及び事業内容の決定方法



■ 総会で決定する ■ 役員会で決定する □ その他

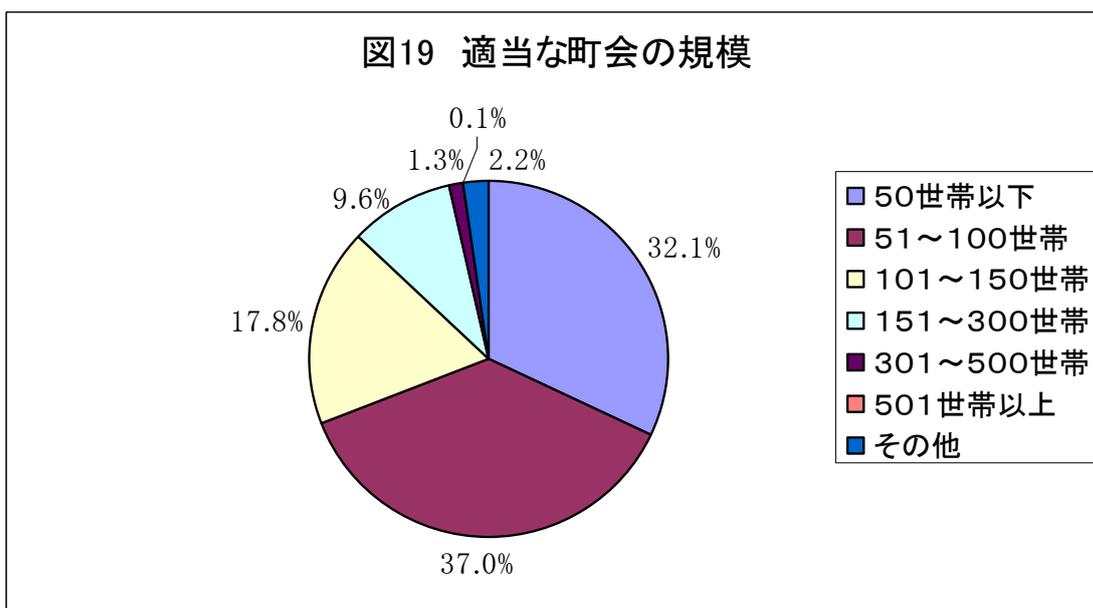
問18 町会の主な運営資金（収入）は次のどれですか。主なものを3つまで選び、○をつけてください。

やはり町会の運営資金は、各地域の住民からの会費によって賄われているところが5割という結果になりました。次いで、行政・各種団体からの助成金が2割を占め、2番目に多い結果となっています。その他に、事業・財産収入や寄付などを運営資金としている町会もあります。



問19 町会の規模は何世帯くらいが活動をおこなうのに適当だと思いますか。

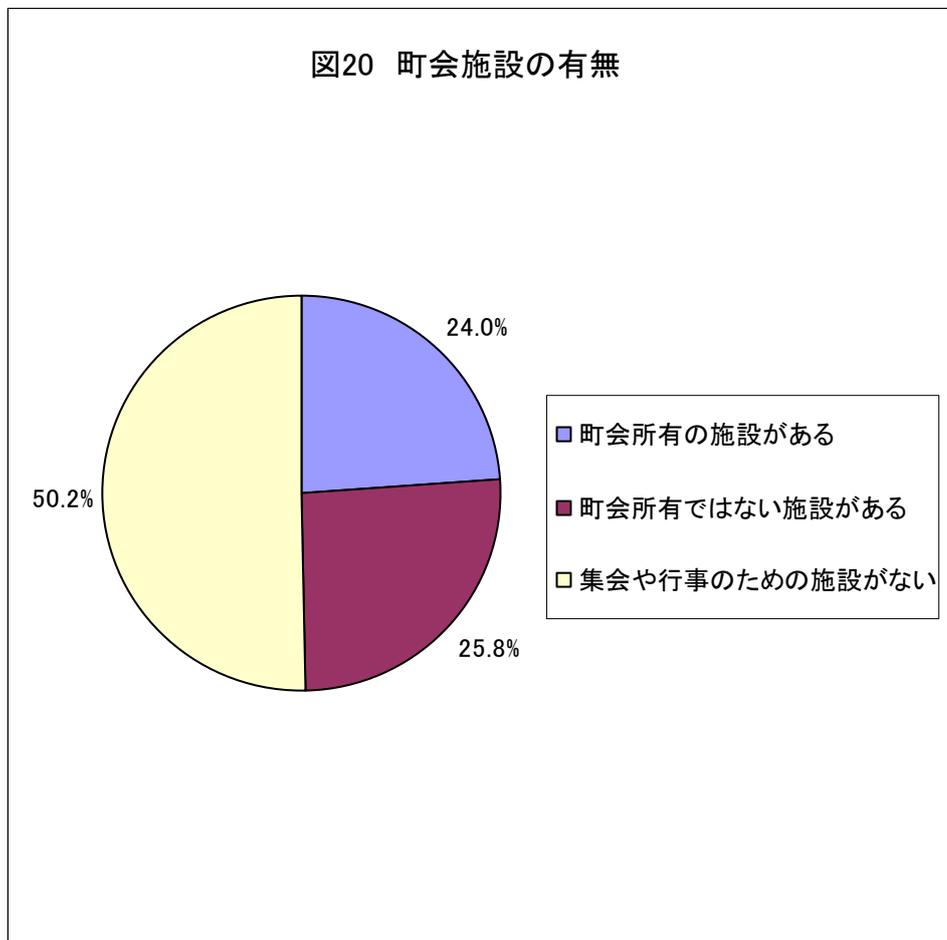
適当だと思う町会の規模については、50世帯以下とするのが3割、51～100世帯とするのが4割弱、101～150世帯とするのが2割弱という結果になっています。151世帯以上というのは全体でも1割というように、やはり多くても150世帯までが町会としては適当な規模であると言えるようです。



問20 町会には、集会や行事のための施設がありますか。

「集会や行事のための施設がない」とした町会が5割を越え、金沢市内の町会の半数以上には町会活動のための施設がないということがわかりました。また、「町会所有ではない施設がある」とした町会が約2割あり、厳密に町会のものとして施設を所有している町会は、2割程度のみであるということが判明しました。

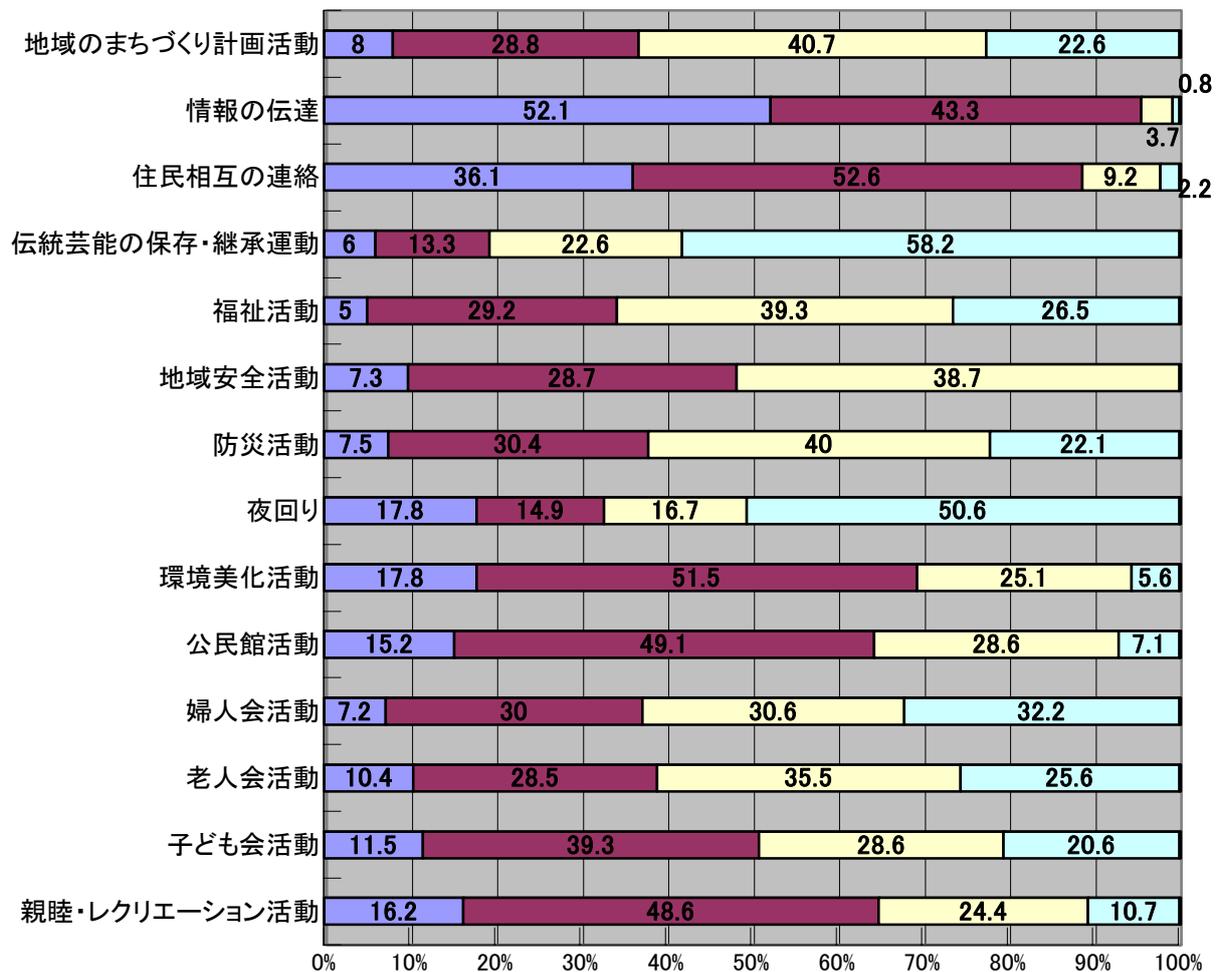
図20 町会施設の有無



問21 あなたの町会では、以下にあげる活動を、どのくらい活発になさっていますか。a～nのそれぞれに、次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

「情報の伝達」と「住民相互の連絡」を活発に行っているとの認識が9割に達するなど、多くなっています。また、「環境美化活動」「公民館活動」「親睦・レクリエーション活動」の活発認識も5割程度ありました。逆に、「伝統芸能の保存・継承運動」が活発ではないとする認識が8割を超え、金沢市の伝統が後継者世代に受け継がれていない実態が危惧されます。

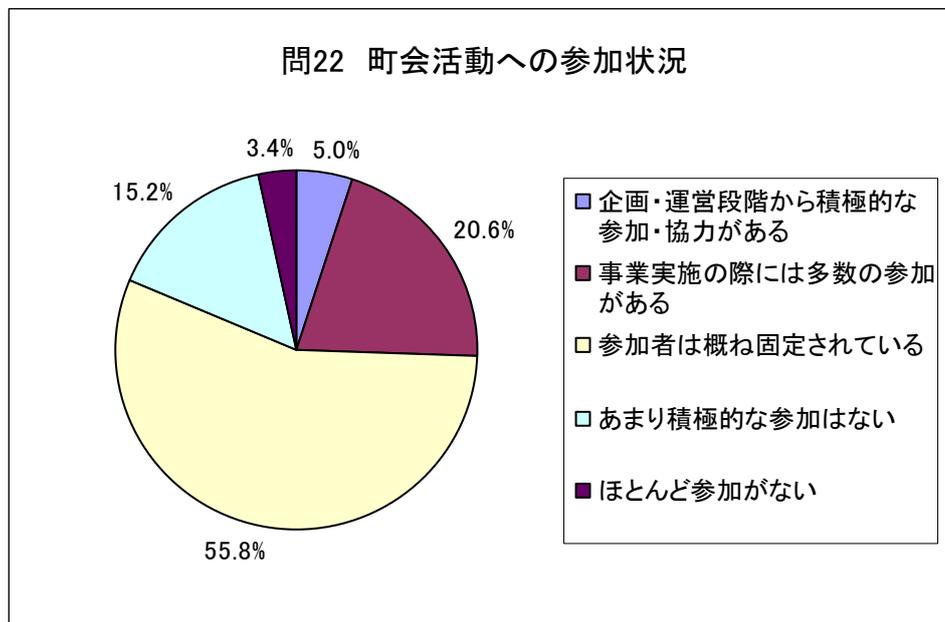
図21 町会活動の活発度



■ とても活発である                      ■ ある程度活発である  
■ あまり活発ではない                      ■ まったく活発ではない

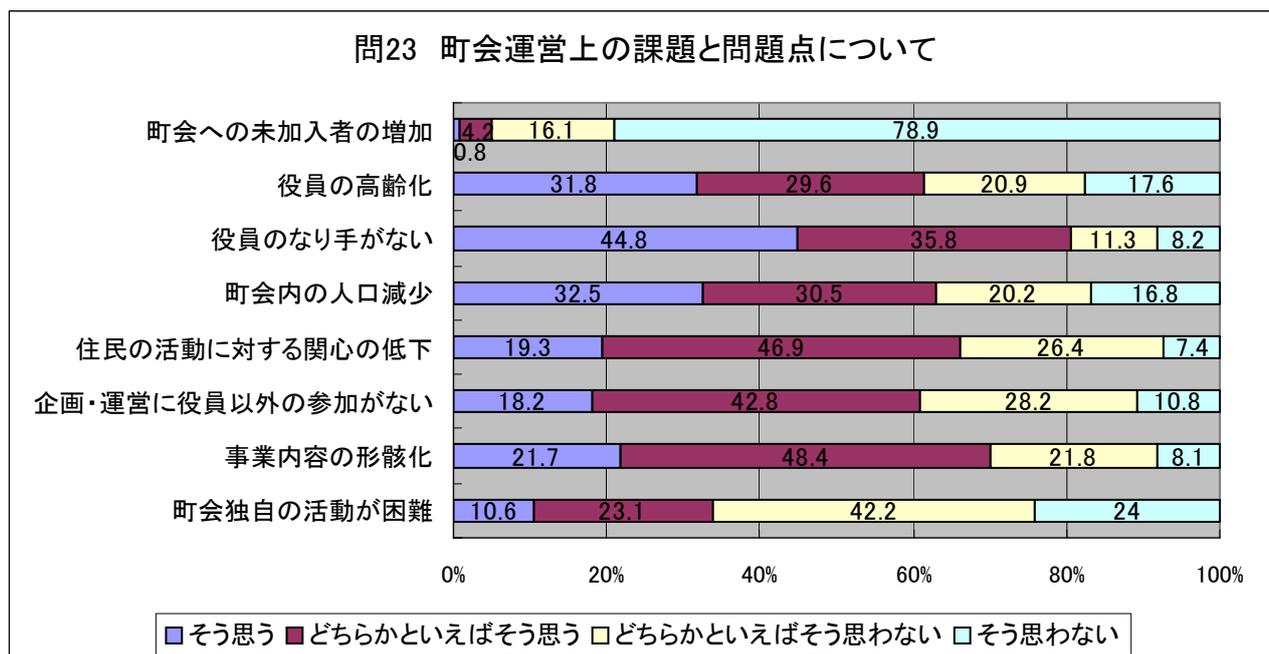
問22 町会のさまざまな活動への地域住民の参加状況は、全体的にどうですか。

「参加者は概ね固定されている」とする認識が5割以上を越えています。町会長をはじめとする役員中心の活動運営の実態が浮き彫りになったといえるでしょう。



問23 以下にあげる町会運営上の課題と問題点について、あなたの町会ではいかがですか。a～hのそれぞれに、次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

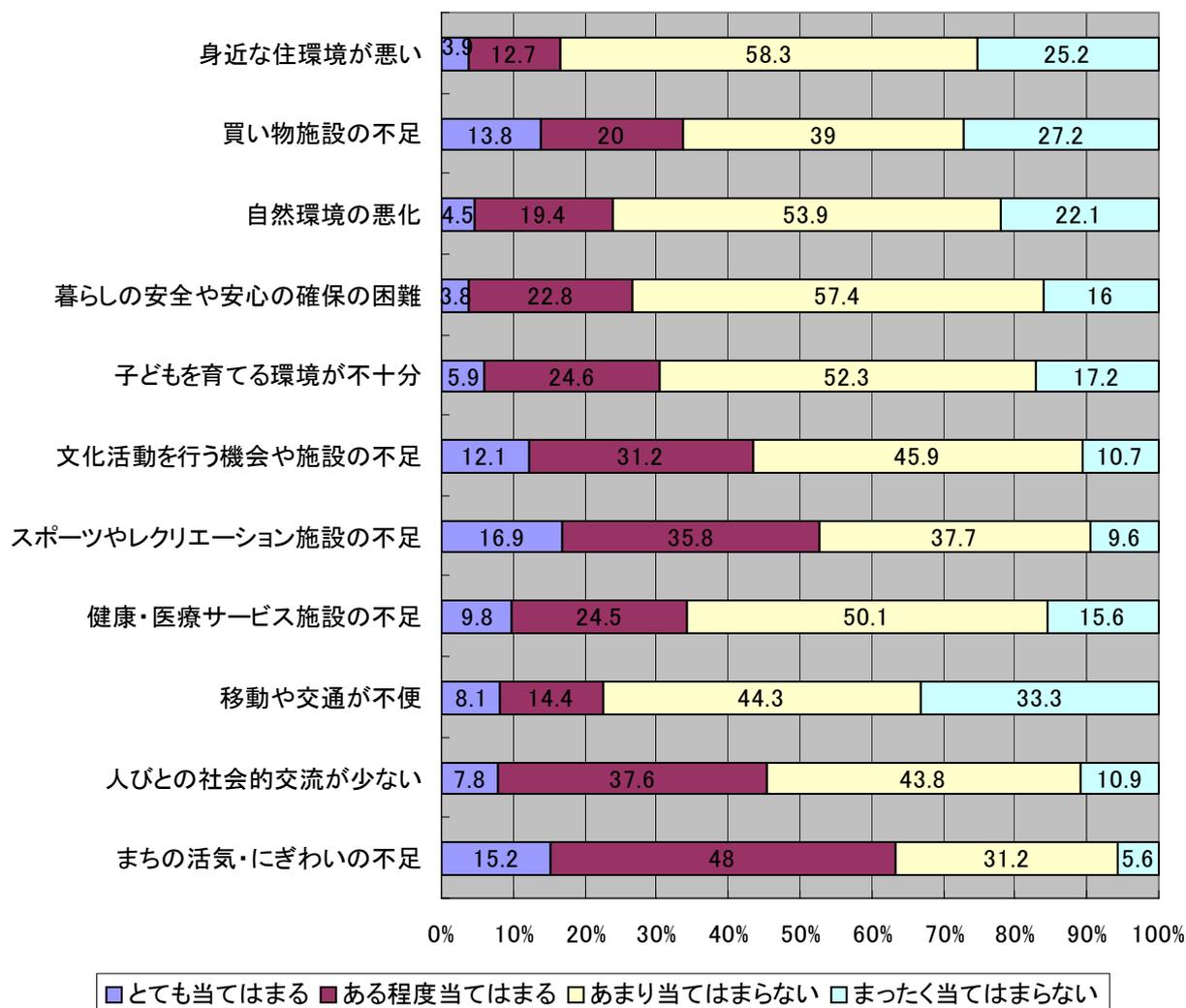
町会の運営をより実りあるものにしていくために、現在の問題点を知ることは大切です。今回の調査では、町会役員の高齢化やなり手がいないことを運営上の問題点としてあげる人が多く、また事業内容の形骸化や地域住民の関心の低下、活動への参加がないことも多くなっていることが分かりました。逆に未加入者の増加や、独自の活動を行うことに制限を感じている人は少ないようです。このことから、地域住民の町会への関心を取り戻し、これからの町会を担う人材を育成していくことがより重要になってくることが分かります。



問24 あなたの住んでいる町会の区域で、現在困っていることとして、以下にあげるものはどの程度あてはまりますか。a～kのそれぞれに、次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

町会区域内では、現在どのようなことが問題視されているのでしょうか。今回の調査では、まちなぎわいや活気の不足とスポーツやレクリエーション施設の不足を挙げる人が過半数を超えています。これからは、地域に活気を取り戻し、生活をより充実したものとしていくための施設の整備が求められていくことになりそうです。

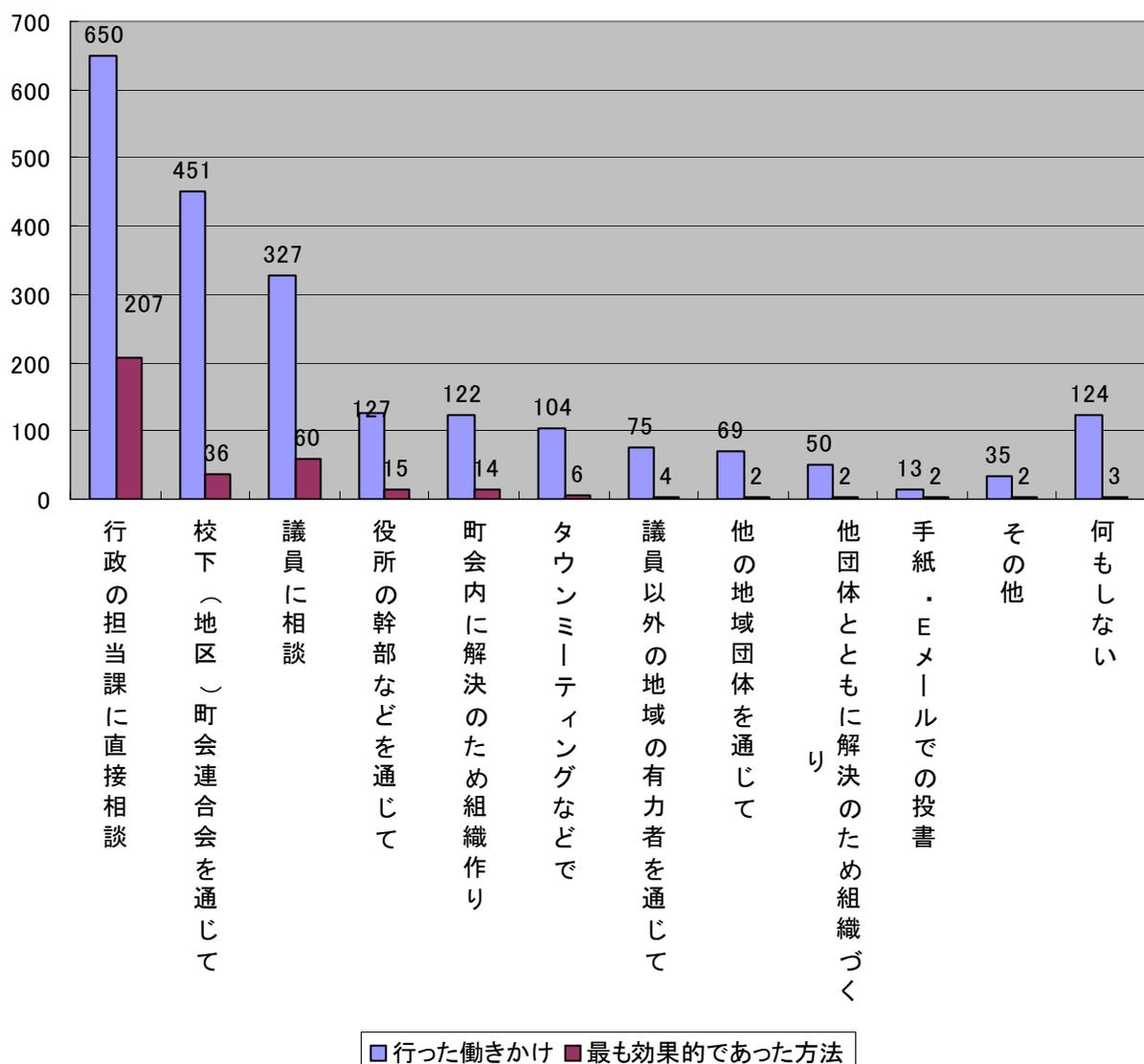
問24 町会地域で現在困っていること



問25 一般的に、地域の問題について解決あるいは改善するために、あなたの町会では誰かになんらかの働きかけを行ってききましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。そのうち、もっとも効果的な方法・ルートであったと思われるものには◎をつけてください。

問24で挙げられたような町会区域の問題を解決するためにとった働きかけとしては、行政の担当課に直接相談する方法をとった町会が多くなっています。そして、それが最も効果的な方法であったという手ごたえも見られます。次いで町会連合を通じる方法、議員を通して働きかける方法をとることも多いようです。逆に何も行動しないという町会は少なく、多くの町会では地域の問題を解決するために様々な働きかけを行っていることが分かります。

図25 地域の問題を解決するために行った働きかけ



(複数回答。うち最も効果的だと思われる方法をひとつ選ぶ)

問26 町会として、これからどんな活動に取り組んでいきたいと思いませんか。自由に書いてください。

回答の内容を大別すると、①親睦に関する活動、②住環境に関する活動、③防災・防犯に関する活動、④高齢者に関する活動、⑤町会運営に関する活動に分けることができます。回答として一番多かったのは、「子どもから年配者まで多く参加できるような行事の考案」や「町民同士のコミュニケーションの促進」といった親睦に関する活動です。次に、「除雪対策」や「ゴミだしまナーの徹底」といった住環境に関するもの、「避難訓練の実施」や「子どもの見守り隊への積極的な参加」といった防災・防犯に関するもの、「高齢者世帯への定期的な巡回」といった高齢者に関するもの、そして「町会役員の負担の軽減」や「役員後継者の育成」といった町会運営に関するものという順に続きます。

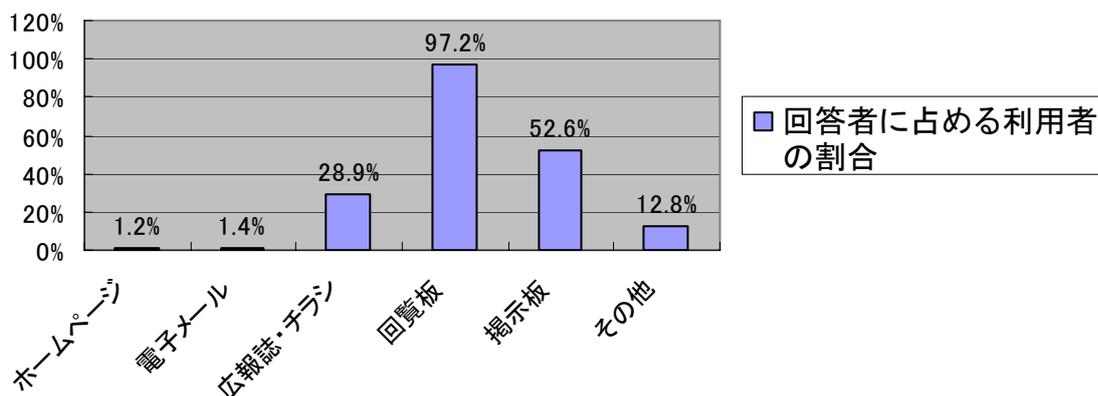
親睦に関する記述が非常に多かった結果から、町会員の親睦を図ることは町会にとって重要な任務と考えられていることがわかります。また、高齢者に関する回答は、単に「高齢者対策」というように具体性に欠けている回答が多く見受けられました。高齢者対策はしなければならないということは認識しながらも適切な具体策が見出せない状況であることが考えられます。その一方で、「折りに触れて親元に帰省してもらうために他所に住む若い人たちに町会通信を配布する」といった具体的な回答もありました。上記に挙げた5つのカテゴリーに分類されない回答として、「伝統行事の維持」、「回覧文書等の速やかな回覧」、「町会費の不参加者（空き地・空き家・駐車場）からの徴収」などがありました。

全体的にみると、少子高齢化に伴い、これまで生じなかった問題が生じてきたり、これまでの活動では町会として成立しにくい状況になってきたりしているため、その対応策としてこれからの活動を考えているという記述が目立ちました。

問27 あなたの町会では、町会の情報を伝達するために、以下のような手段を利用されていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

時代の変化によって従来の回覧板に代わる町会内での新たな情報伝達手段の浸透の度合いを調べようとしたのが質問作成の意図です。その結果「回覧板」を選択した町会が97%、「掲示板」の場合は52%であることから町会内では依然回覧板や掲示板が主な情報伝達手段、連絡のために利用されていることがわかります。一方で「ホームページ」や「電子メール」を利用する町会の割合は「ホームページ」1.2%、「電子メール」1.4%と低く、これらが新たな情報伝達手段としてまだ認識されていないことを表しています。

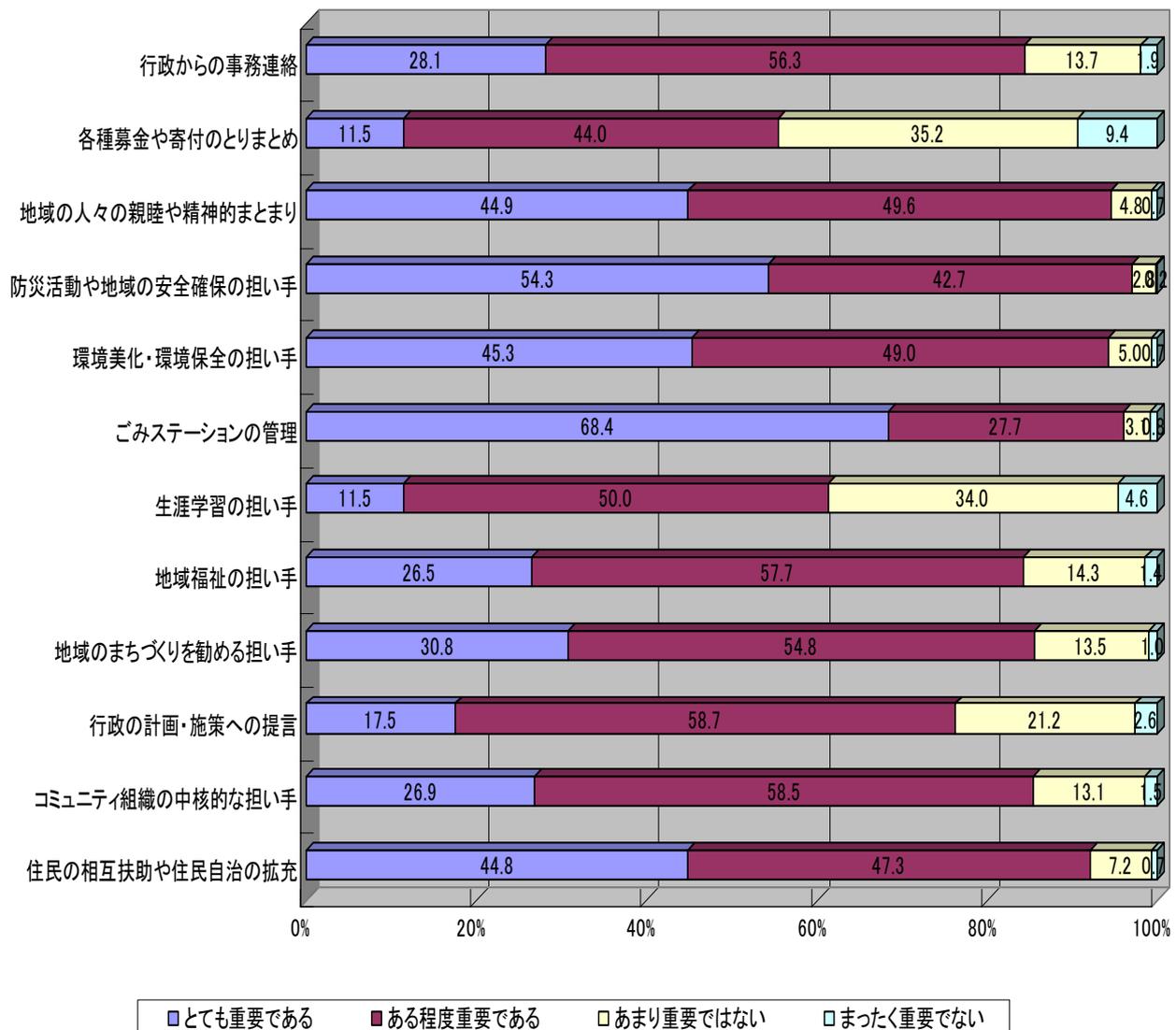
図27 回答者に占める利用者の割合



問28 町会の役割として、以下にあげるものはどの程度重要であると考えますか。a～1のそれぞれに、次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

町会は何をするための組織なのかということについて町会長の方々の意見をお聞きしたかったのでこの質問を作成しました。選択肢のうち「とても重要である」と「ある程度重要である」を「重要である」としてまとめると、町会長の方々は多くの項目について、80%以上「重要である」と回答していることから町会の果たす役割を重く受け止めていることがわかります。特に「ごみステーションの管理」と「防災活動や地域の安全確保の担い手」において「とても重要である」と回答したのは68%と54%でした。日常的な町内活動が重要視される傾向にあると言えます。一方で「各種募金や寄付のとりまとめ」と「生涯学習の担い手」について「とても重要である」と答えたのはともに12%しかないことから生活に直結しない活動はあまり重視されていないと言えます。

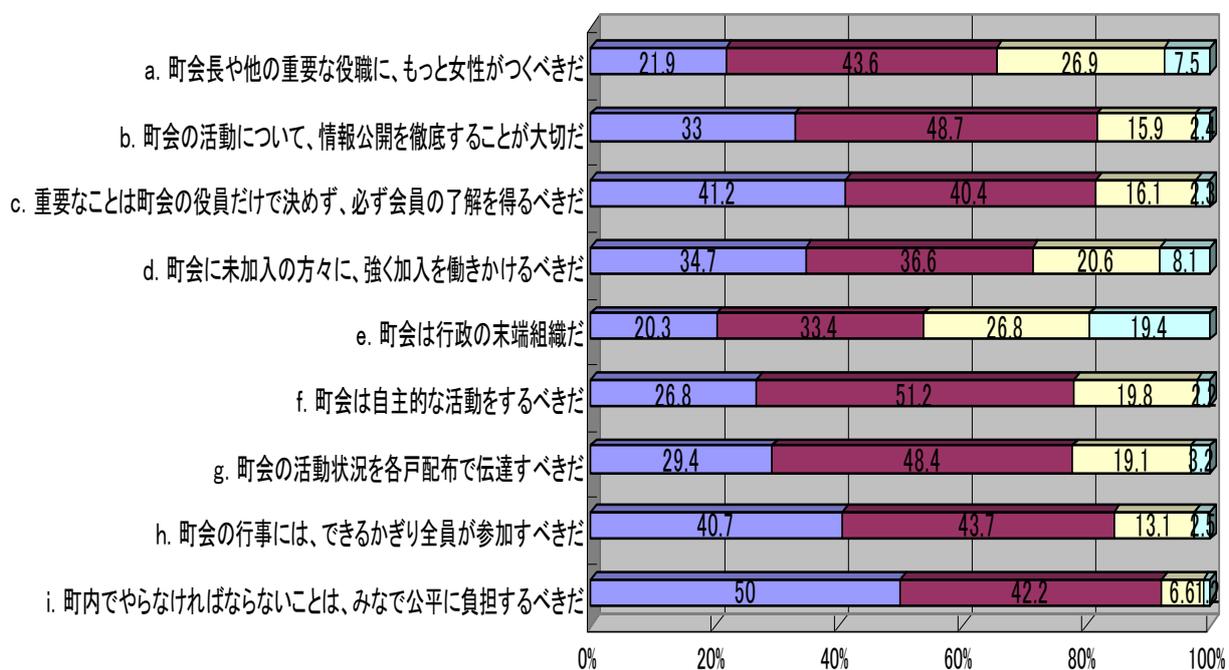
図28 町会の果たすべき役割



問29 町会に関する以下の考え方について、どのように思われますか。a～iのそれぞれに、次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

すべての項目で支持者が過半数を越えており、総じて町会の民主化の必要性を感じておられるようです。なかでも、「町会行事にみなが参加すべきだ」と「町会の仕事を公平に分担すべきだ」という意見に対する支持がきわめて高くなっていますが、町会長としての立場からこうした考えに傾くのだと考えられます。他方で、「町会を行政の末端組織」と考える町会長は相対的に少なくなっています。

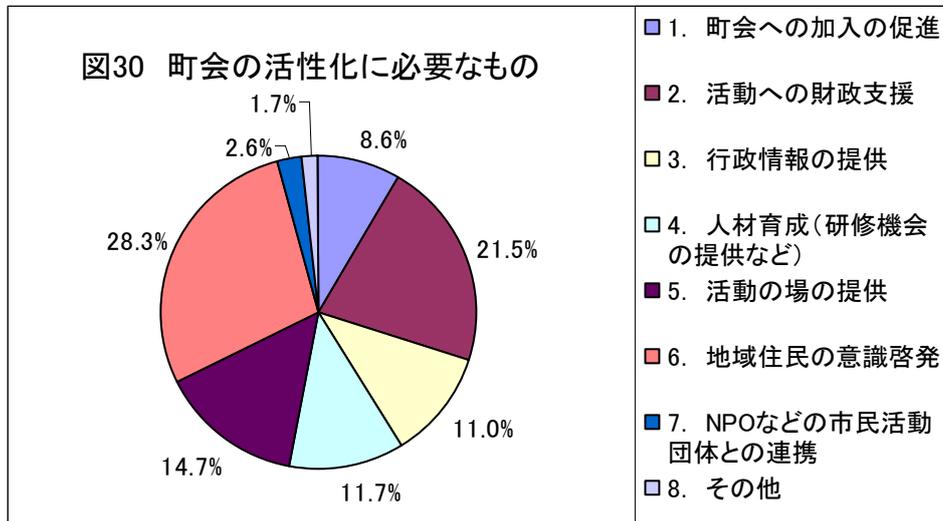
図29 町会の民主化



■ 1. そう思う ■ 2. どちらかといえばそう思う □ 3. どちらかといえばそう思わない □ 4. そう思わない

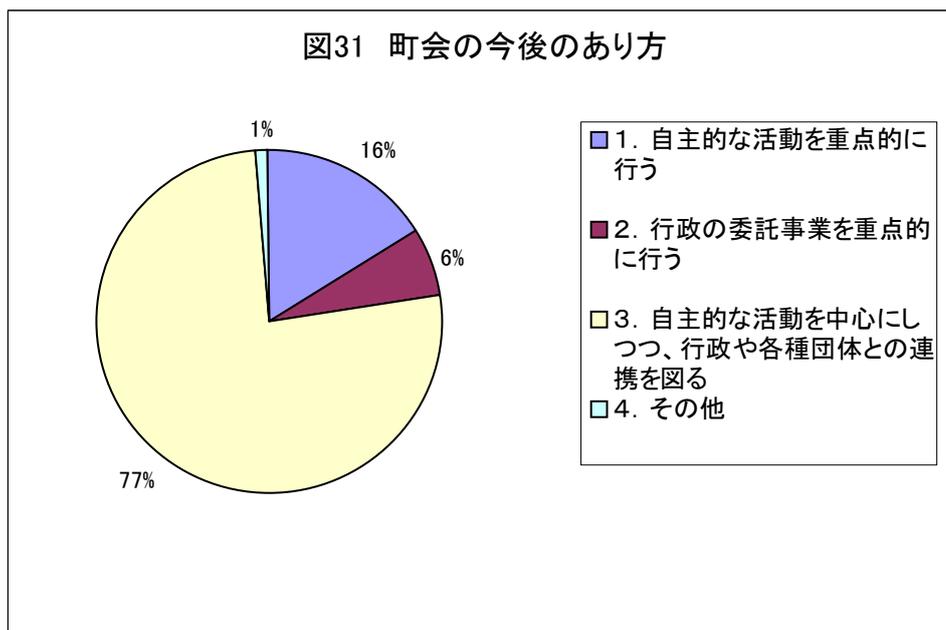
問30 町会の活性化に必要なものは何だと思いますか。3つまで選び、○をつけてください。

町会の活性化に必要なものは、「地域住民の意識啓発」が最も多く、次に「活動への財政支援」が多くなっています。町会の活性化には、まずはその地域に住む住民の町会活動への参加意欲や、町会への帰属意識が不可欠であるということでしょう。このような町会内部の要素と、財政支援や場所の提供といった外部の要素の両方が重要であるといえます。



問31 町会の今後のあり方についてどうお考えですか。

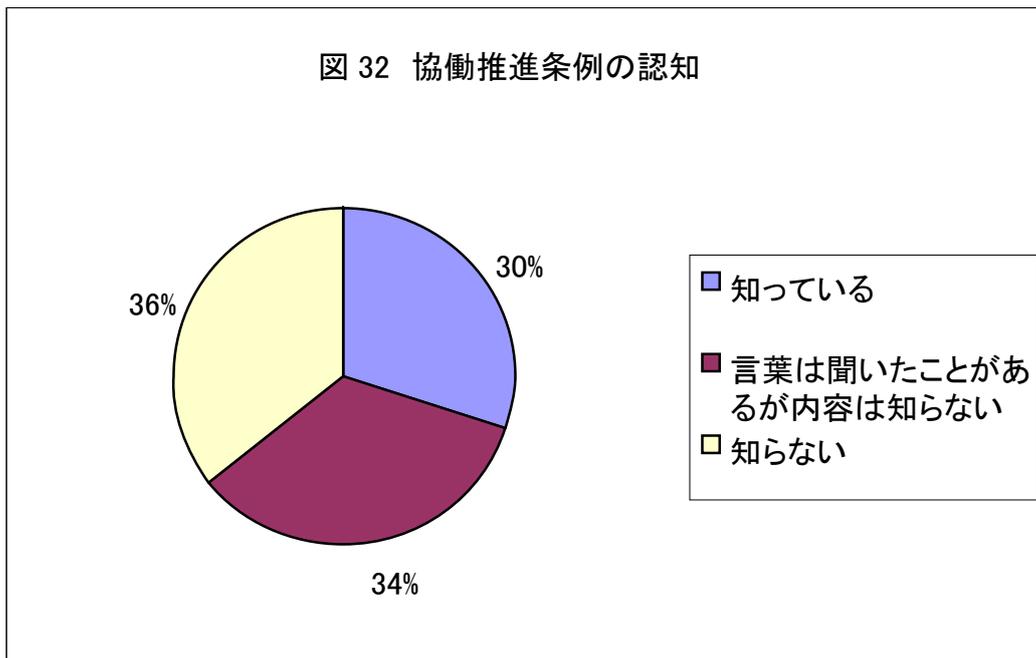
町会の今後のあり方として、「自主的な活動を中心にしつつ、行政や各種団体の連携を図る」という考え方を支持する人の割合が最も多くなっています。一方で「行政の委託事業を重点的に行う」を支持する人は6%と少なく、全体的には町会活動をする上で、町会の自主性を重視する傾向にあるといえます。



問32 金沢市では市民の皆さんが積極的に市政運営に参加し、市民と行政が協力しながらまちづくりをすすめる「協働のまちづくり」をめざして協働推進条例（平成17年4月施行）を制定し、各種事業を展開していますが、この条例をご存知ですか。「協働」とは、市民と行政がそれぞれ自らの果たすべき役割を自覚して、共通の目的に向かって対等の立場で協力し合い、補完し合うことをいいます。

協働のまちづくりをすすめるに当たって、どれほど市民に協働推進条例が認知されているかを把握するための質問として設けました。「知っている」と答えたものは29%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」と答えたものは33%、「知らない」と答えたものは35%と、まだ協働推進条例の認知度が低いことを示しています。

図32 協働推進条例の認知

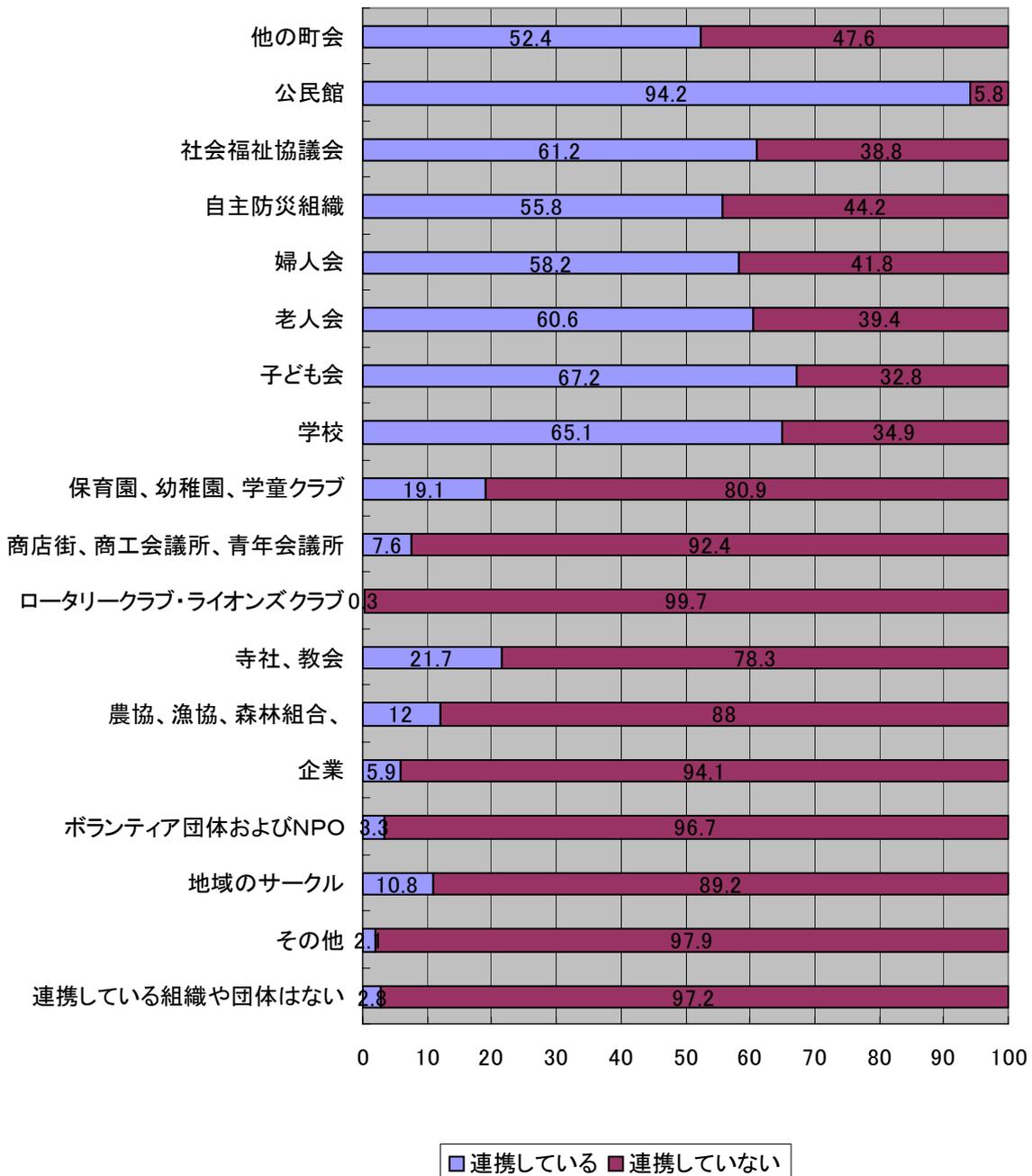


問33 (1) 町会では、どのような組織や団体と連携して活動していますか。

どのような団体と連携している町会が多いかを知るためにお聞きしました。

最も多いのは、公民館と連携している町会が93%でした。また、最も少ないのは、ロータリークラブ・ライオンズクラブと連携している町会で、0.2%でした。全体的に、他の町会や公民館など地域に根ざした団体と連携している反面、商店街や企業などの団体と連携している町会は少なく、地域の活性化のためには、これらの団体との連携が必要だと思われます。

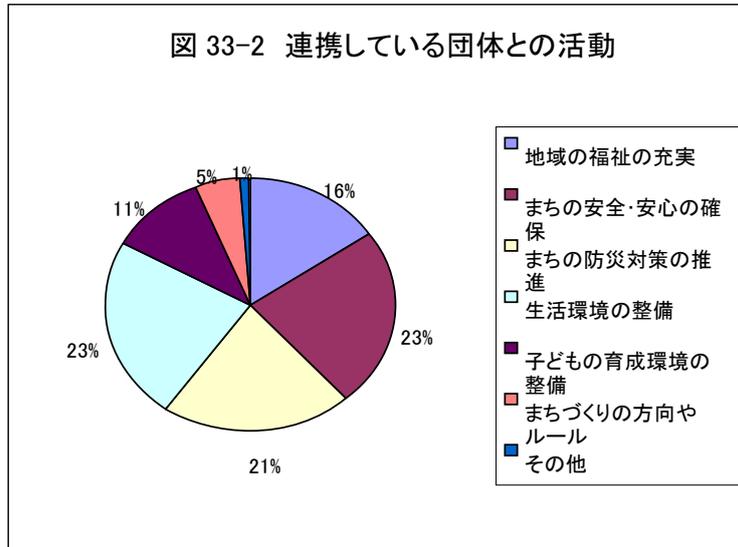
図33-1 町会と連携している団体



問33(2) では、それはどのような活動ですか。

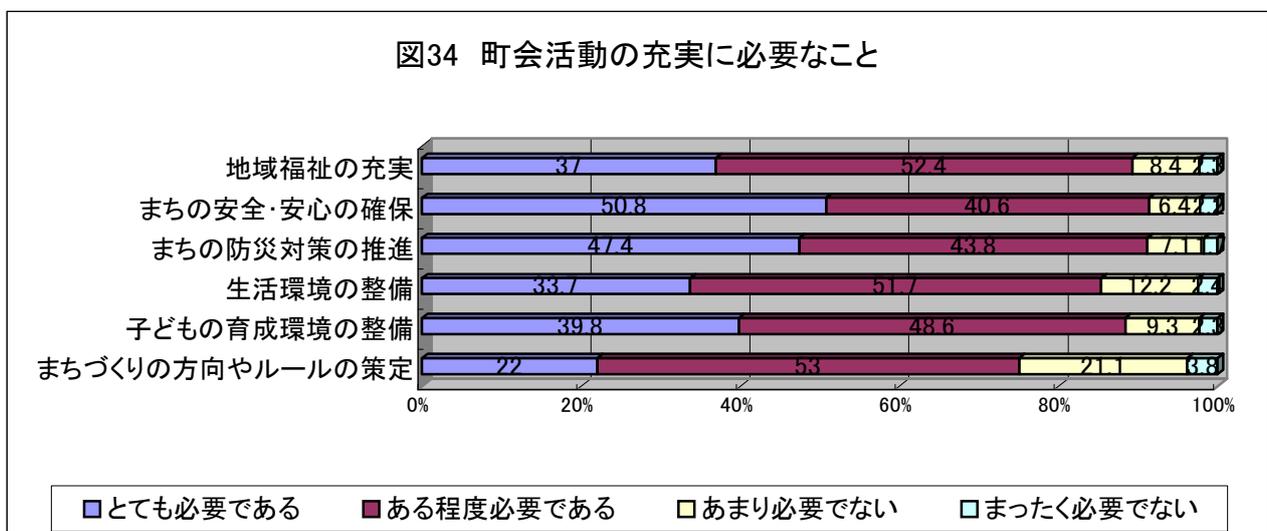
(1) で連携している団体があると回答した町会を対象に回答していただきました。結果としては、「まちの安全・安心の確保（子どもの見守りなど）」と「生活環境の整備（ごみステーションの整備など）」を行っている町会が最も多いという結果になりました。

逆にまちづくりの方向やルール策定を行っている町会は少なく、問32にも見られたように、まちづくり活動があまり活発に行われていないという現実を示しているとも言えるでしょう。



問34 今後、町会活動の充実を図る上で、ボランティア団体・NPO（営利ではなく、社会的な使命の達成を目的とした民間組織）との連帯関係の構築はどの程度必要だと思いますか。a～fのそれぞれに、次の1～4までにあてはまるものをお選びください。

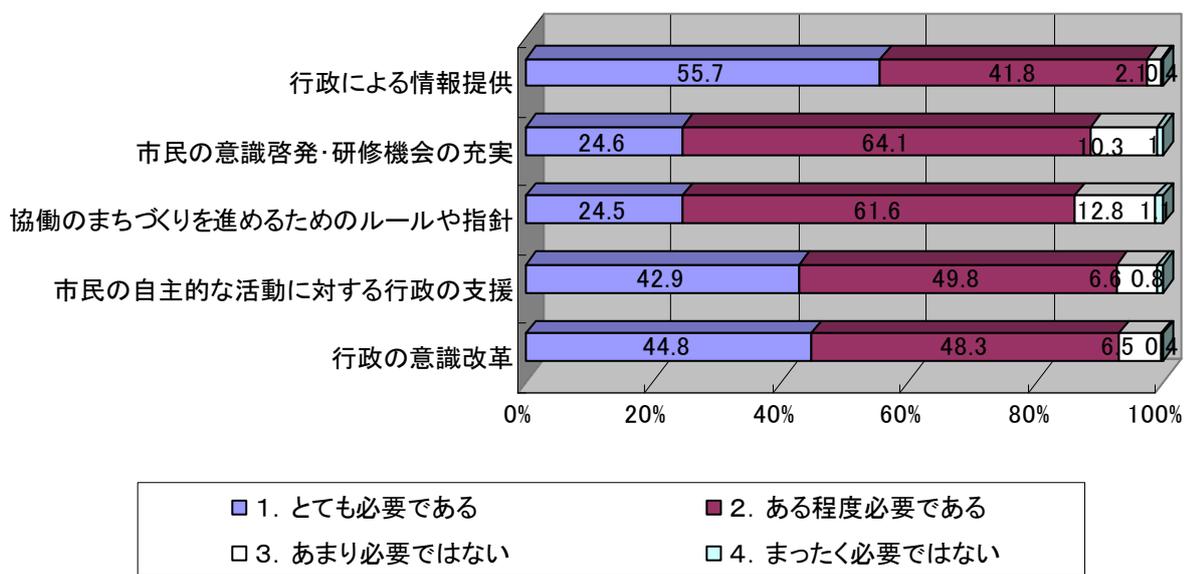
「まちの安全・安心の確保」「まちの防災対策の推進」に関して、民間組織との連帯を「とても必要である」と思っている人が約50%ずつおり、他の項目と比べ多くなっています。全体的にどの項目に関しても民間組織との連帯関係の構築の必要性を「とても必要である」「ある程度必要である」と感じている人の割合が75%～90%程度となっており、今後、町会活動の充実を図る上で、外部の団体との連帯の必要性は高まっているといえます。



問35 市民と行政が協働でまちづくりを進めるために、以下にあげるものはどの程度必要であるとお考えですか。a～eのそれぞれに、次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

この質問は、協働のまちづくりを進めるために必要なものは何かを尋ねたものです。どの項目についても、8割を超える人々が必要であると答えています。中でも、回答者の56%が、「行政による情報提供」が「とても必要である」と答えており、注目されます。協働のまちづくりにおいて、人々が必要とする情報を提供していくことが今後の有効な政策のひとつと考えられます。

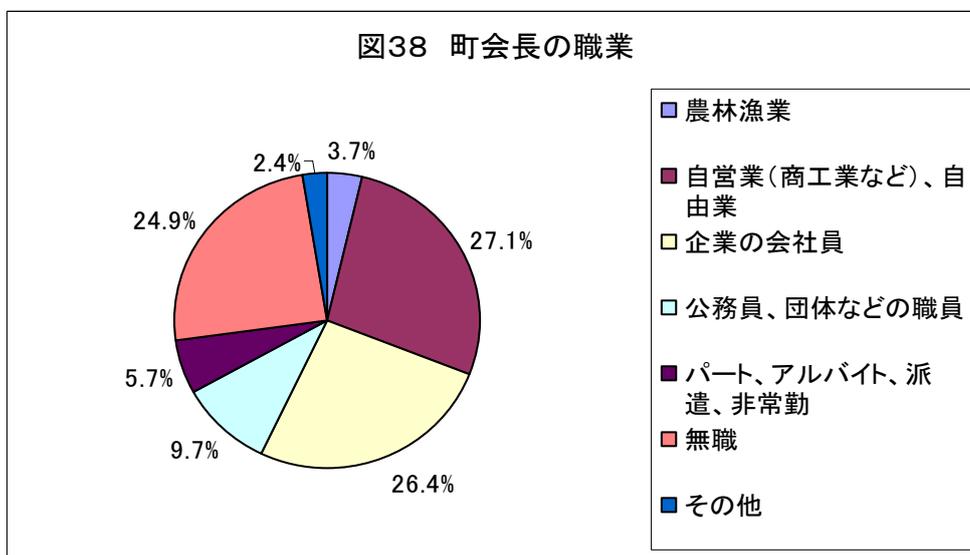
図35 協働のまちづくりを進めるために必要なものとは



問38 あなたの職業は、次のうちのどれにあたりますか。

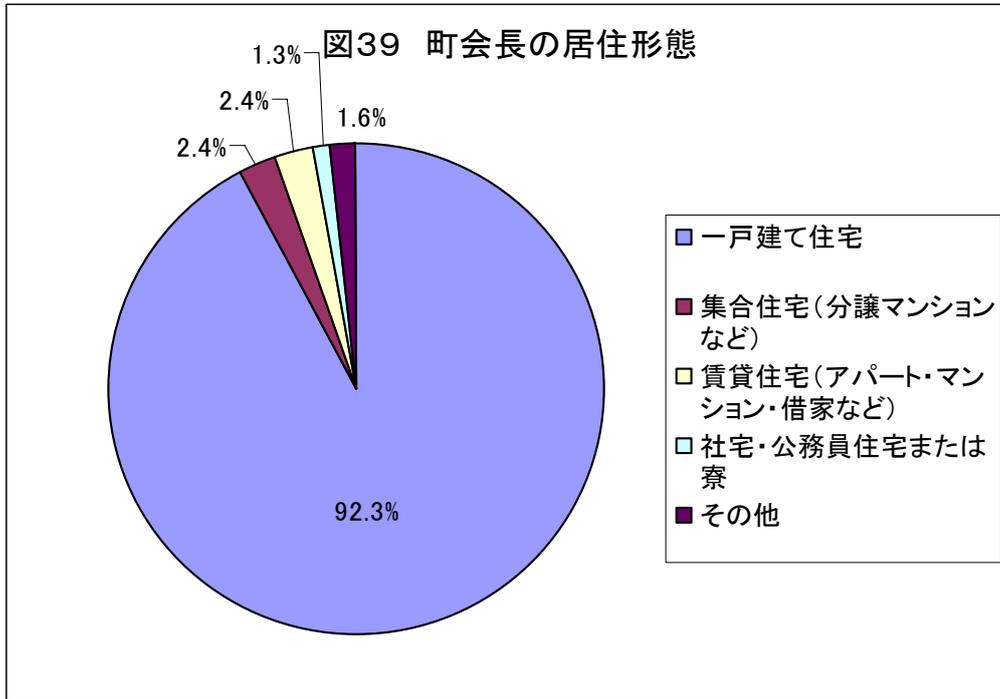
「自営業（商工業）、自由業」と「企業の会社員」がそれぞれ4分の1を超えています。無職も約4分の1を占めており、定年後に町会長になる場合が多いと考えられます。

図38 町会長の職業



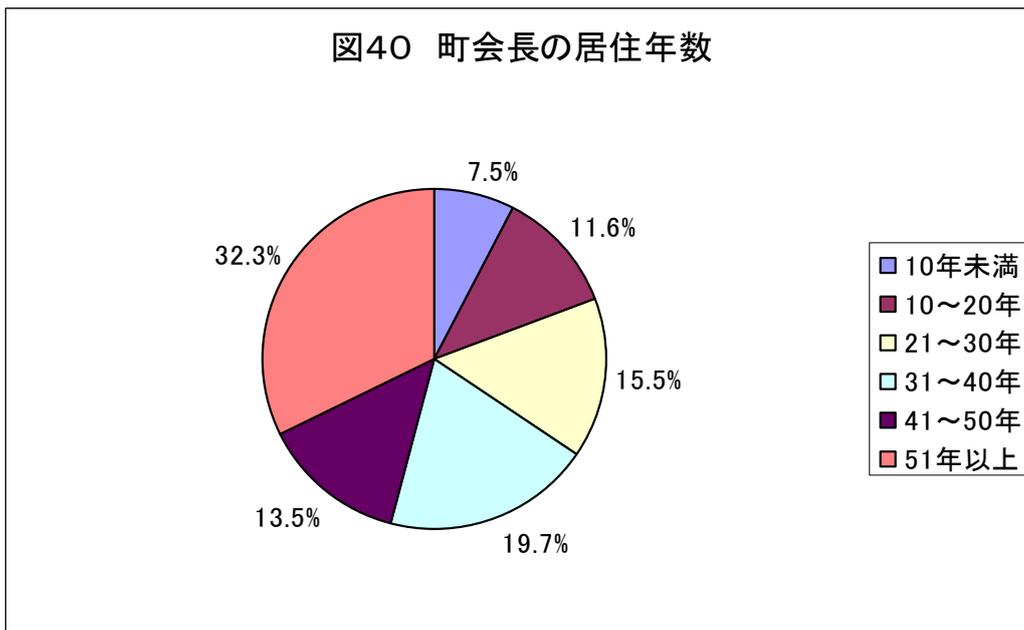
問39 現在のお住まいは次の中のどれですか。

一戸建て住宅が9割を超えています。町会長のほとんどが一戸建てに住んでいると言えます。



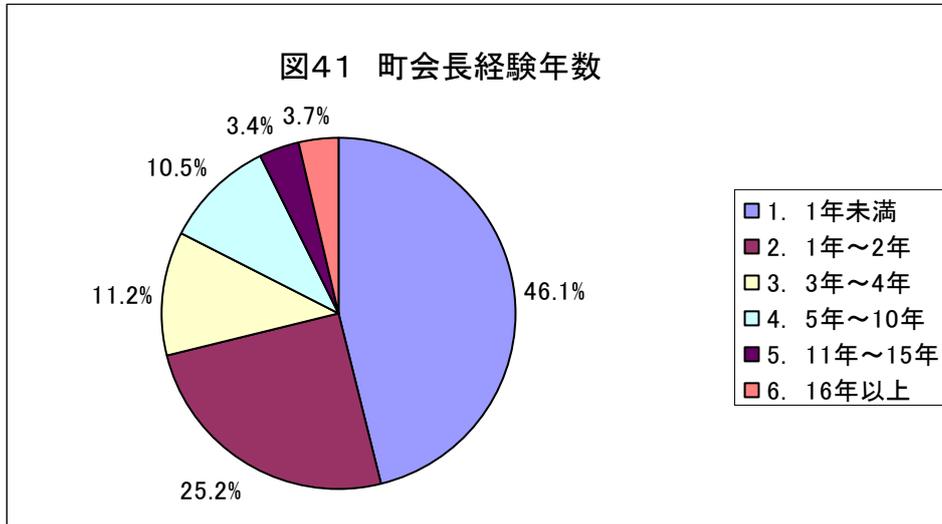
問40 あなたが、この町会の地域に住み始めてどのくらい経ちましたか。

41年以上住んでいる方でおよそ5割近く占めています。特に51年以上と答えた方が最も多く、3割を超えています。その地域に長く住み続けている人、生まれた時からずっと住んでいる人が町会長になっていると考えられます。



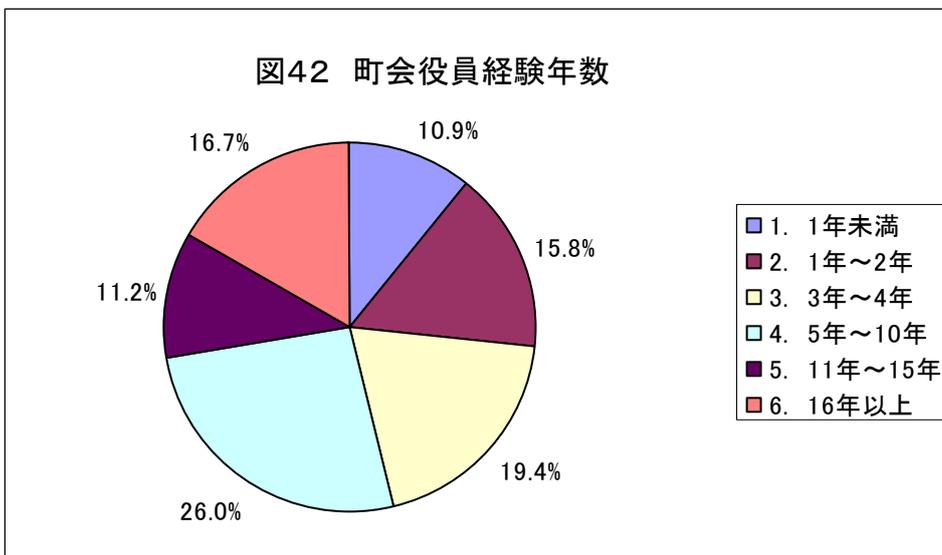
問41 あなたは町会長になられて、現在どれくらい経ちましたか。

町会長になって「1年未満」の人が半数近く、続いて「1年～2年」「3年～4年」と多くなっています。2年以下の人が6割を占めるので、多くの町会では、同じ人が何年も町会長の役職を担うことはないようです。しかし一方で、5年以上と長期にわたって町会長をやっている人も全体の4分の1を占めていて、特定の人がずっと町会長を任されている町会もあることが分かります。



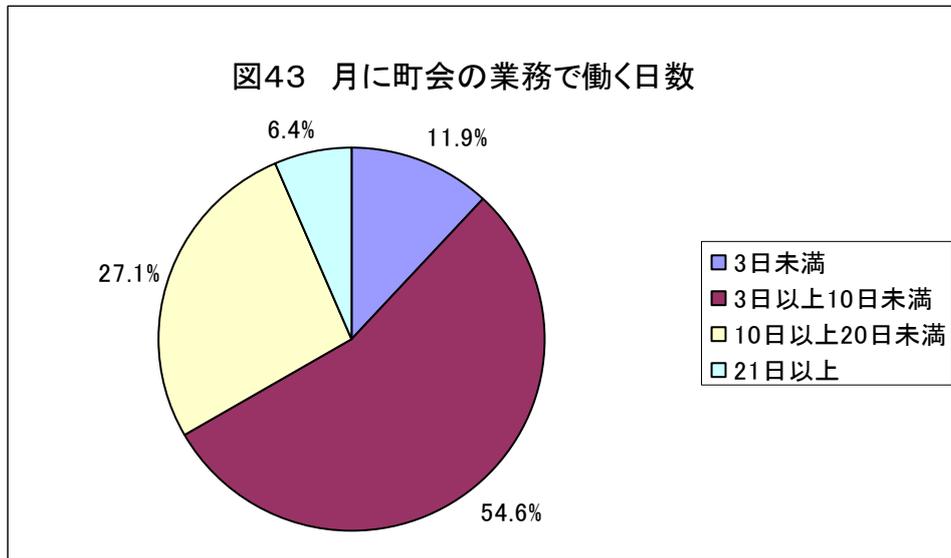
問42 あなたは町会の役職（町会長含む）に通算でどのくらい従事していますか。

町会の役職経験年数は、「5年～10年」「3年～4年」が多くなっています。逆に、「1年未満」の人が最も少なくなっています。5年以上町会の役職を経験している人が半数を超えていて、町会に長く携わっている人が非常に多いことが分かります。



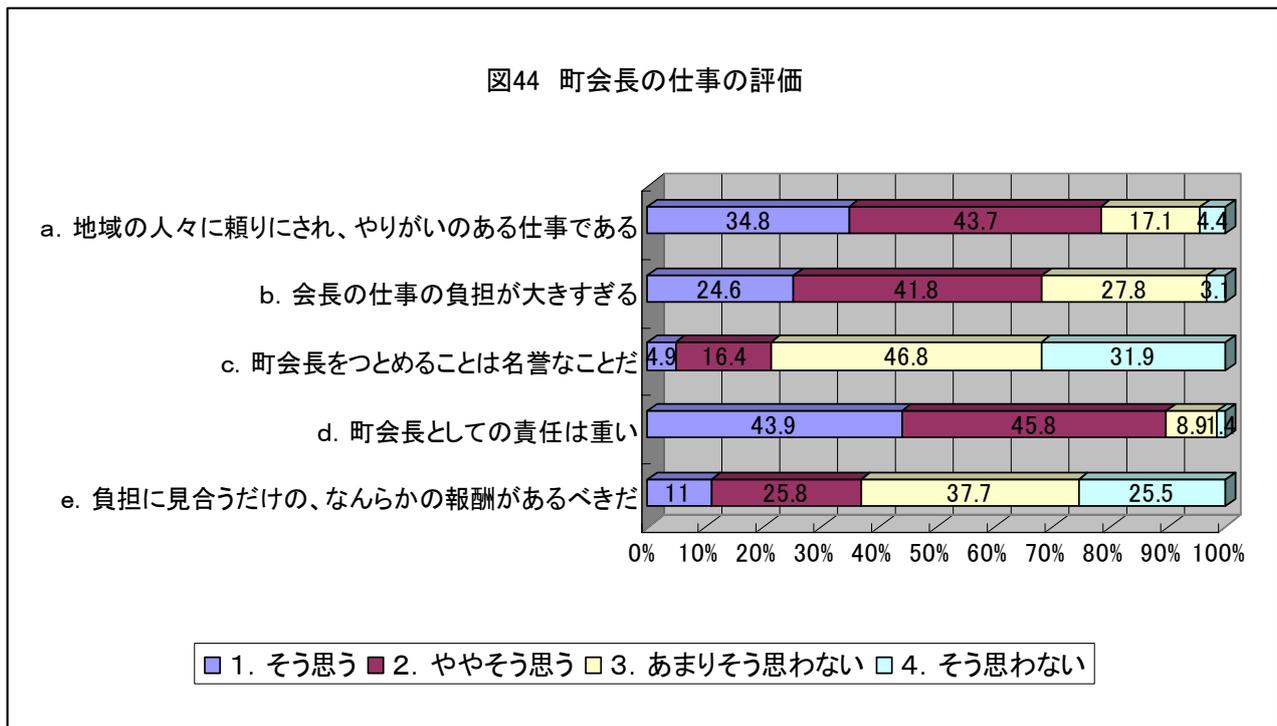
問43 あなたは町会の業務で平均して毎月何日くらい働けますか。おおよそで結構です（一日に従事する時間の多少は問いません）。

月に町会の業務で働く日数は、「3日以上10日未満」の人が最も多く、過半数を超えています。逆に、「21日以上」の人が最も少なくなっています。また、「10日以上20日未満」の人が3割近くを占めていて、町会の業務に熱心に取り組んでいる人が多いことが分かります。



問44 町会長の業務について、どのようにお考えですか。a～eのそれぞれに、次の1～4の中からあてはまるものをお選びください。

近年では町会長の引き受け手がなかなか見つからない町会も多いようです。そこで、町会長というお仕事について、どのように考えているのかを尋ねました。約9割の方が「責任が重い」と回答しており、もっとも高くなっています。逆に、「名誉なことだ」とする人は2割程度にすぎず、もっとも低くなっています。全体な傾向として、町会長を引き受けることの大変さを読み取ることができます。



問45 あなたにとって、町会とはどういうものでしょうか。ご自由にご記入ください。

町会長の方々から記入していただいた意見をいくつかは大別しました。(1)地域住民同士で助け合い、「遠くの親戚より近くの他人」という地縁に基づいた仲間意識の醸成の場であるというもの。(2)防災や防犯、高齢者介護など地域の安全を守る場であり、また安心して暮らせる場であるというもの。

(3)行政組織の末端、しかし行政に意見を言うために必要なもの。(4)町会長の業務が個人に大きな負担であり、役員の押し付け合いになる。ここ数年世帯状況の把握が困難であるというもの。そして、(5)日常生活の場、町会に愛着を持てるようになったなど、です。

(1)や(2)のように、町会内の住民同士で自分たちの生活を守っていこうとする自治意識が町会長の方々は高いと思われます。しかし、(3)のように行政の決定事項をただ伝えるためだけの組織になっているので、行政への働きかけを望む意見もありました。また、質問からは若干外れるものの

(4)のように町会業務の現状を知ることもできました。そして、(5)では町会が生活に根付いた組織であることがよくわかります。